東京都市大学 校友会





連帯の輪を広げよう!

東京都市大学 校友会 副会長 **小林 菊恵** (S33家政)



はじめに、昨年9月26日北澤前 学長の訃報に接した時の驚きは今で も忘れることは出来ません。ご就任 後間もなく、校友会松下会長・吉田 副会長・渡辺事務長とともに学長室 に伺った折に、これからの母校へ 大いなる夢と期待を熱く語られ、校 友会に対しても様々なご提案を戴き ました。平成25年度に策定された 「東京都市大学アクションプラン 2030」の具現化を目前に旅立たれ るのはさぞご無念であられたことと 拝察いたします。

ここに心よりご冥福をお祈りいた しますとともに、本年1月1日に新 たに学長にご就任された三木千壽先 生のもと母校発展に向け、なお一層 の努力をいたしますことをお誓いし たいと存じます。

さて、校友会会員の皆様にはます ますご清祥のこととお慶び申し上げ ます。

母校の統合に伴い旧武蔵工業会と旧美砂会の2つの同窓会が統合し「東京都市大学校友会」が誕生してから早くも3度目の春を迎えます。まったく環境の異なる両会が互いに理解しあえるまでには時間がかかりますが、努力を重ね前向きに進めていきたいと願っております。

かつて私共が、旧美砂会時代の昭 和42年に東横学園女子短期大学第 2代学長に就任された故英修道先生 より「私学における同窓会はかくあるべき」との薫陶を受け、多角的な活動に取り組み同窓会が大きく発展いたしました。そして、その活動の根底にあったのは先生より示された「母校の発展は同窓会の礎にある」という一節でした。その思いは母校が東京都市大学となり、同窓会が校友会になった今も変わることはありません。

また、「同窓会はもちろん卒業生の親睦も大事だが、学校・後援会・同窓会が三位一体となって力を尽くすことが母校の発展、後輩たちへの大きな支援となる」という指針は、現在の校友会活動においても相通ずるものであると確信しております。旧武蔵工業会と旧美砂会の会員、そして今後陸続と誕生する東京都市大学の後輩の皆様とともに力を合わせて母校と校友会発展に向けて努力してまいりたいと思います。

お話は変わりますが、私は東横学園女子短期大学家政学科栄養士専攻の第1期生でございます。入学当時は先輩もいなければ後輩もいない50余名が、これからの学生生活をどのように過ごしていくのか、何からどうはじめていけばいいのか途方にくれているとき温かく手を差し伸べてくださったのが武蔵工業大学学友会の方々でした。学友会の組織作り、クラブ活動の進め方等々、手を取る

ように教えてくださいました。右も 左もわからず途方にくれていた私た ちは、水を得た魚のように活動を始 めました。演劇部・音楽部・フォー クダンス部、音楽会の開催など、こ れこそが大学生活なのだと実感しな がら充実した日々を過ごすことが出 来ましたことは60年の時が過ぎた 今でも私の心の中に大切な思い出と なって残っております。

また、そうした活動の中から武蔵 工大生と東横短大生のカップルが多 く誕生しました。今でもきっとご夫 婦仲睦まじくお過ごしのことと思い ます。

今にして思えば当時の日々は、やがて統合されて2つの同窓会が1つになるための予行演習ではなかったのかとさえ思えてなりません。

統合されても組織づくりや活動の 方向性の確立については未だ途上で はありますが、諸行事や地方支部会 の活動を通して連帯の輪は着実に広 がりつつあります。母校の桜が満開 になるたびに、「東京都市大学 校 会」も新たに前進の一歩を踏み出 し、さらなる連帯の輪を広げていけ ることを信じて邁進していく所存で すのでご協力の程よろしくお願い致 します。

終わりに校友会会員の皆様のます ますのご健勝とご活躍をお祈りして 巻頭の挨拶とさせていただきます。

国際標準の大学への進化を目指して

東京都市大学 学長東京都市大学 校友会 顧問 三木 千壽



グローバル時代をむかえ、卒業生 の皆様の活躍の場から国境が消えつ つあります。理系や文系といった分 類、機械、電気、といった分野の境 界も消えつつあります。時間と空間 の感覚も変わりました。私が高校生 で広島から上京した際には、一番速 い特急つばめで12時間かかりまし た。今は12時間あれば世界のどこ にでも行けますし、飛行機代は10万 円あれば十分でしょう。このような 変化は産業構造を急速に変えていま す。高等教育の世界も変わりつつあ ります。日本の高校生が進学先とし て世界の大学を選択肢とするように なるのも目の前でしょう。まさに超 時空間時代の到来です。

東京都市大学の中長期計画である アクションプラン2030では、教育理 念を「ボーダーを越えて、学生と教 職員がともに考え、学び、行動する ことで社会に貢献できる人材を育て る」、ビジョンー目指す大学像を「80 年を超える専門的実践教育の伝統に 加えて、「都市」をキーワードに時代 の要請に取り組み、国際都市東京で 存在感を示す有数の私大を目指す」 としています。さらには有数の大学 の定義を「大学世界ランキング300位 以内」としています。その実現には、 教育と研究の両面で国際標準の大学 に進化することが必須であり、その ための大学改革を進めます。

国立大学は、大綱化、大学院重点化、法人化、そして平成24年からの大学改革実行プランで大きく変わりつつあります。大学改革実行プランには、「社会を変革するエンジンとしての大学の役割が国民に実感できることを目指しなさい、大学は社会に対する責任を果たしなさい」と書き込まれています。多くの私学でも同様な改革プログラムが進められており、その結果としていわゆる大学の序列も大きく変わりつつあります。

大学改革プランでの最重要課題は 国際化とグローバル人材育成です。 この流れの中で、大学は世界を舞台 に活躍する人材を育てる大学と、 ローカルな場で活躍する人材を育て る職業訓練学校的な大学に分化して いくと考えられます。東京都市大学 はこのあたりの流れにさほど関心が 無かったのではないかと感じていま す。東京都市大学がグローバル型大 学を目指すのか、あるいは職業訓練 型大学を目指すのかは、大学として の大きな決断となります。もちろん 私はグローバル型大学を目指して舵 を切る所存であり、そのために学長 に選考されたと考えています。もち ろん教職員の皆様ときちんとした合 意形成を行いつつ推進いたします。

「国際標準の大学」の具体的な姿をお見せすることは難しいことです。教育面では教育の質保証と認証

であり、目前の目標としてはJABEE を取得し、Washington Accordを 通して教育プログラムを国際化する ことになります。それは、きちんと 教え、きちんと学ぶ形を作ることと もいえます。研究面では世界の大学 ランキングで用いられている成果指 標が参考となります。教育と研究が 大学を駆動する原動力です。大学の 国際的競争力を高めることを意識 し、明確な成果目標を設定しての改 革を推進するのみと考えます。国際 標準の大学の出来上がりの姿として は、全世界から学生や教員が自然に 集まる「知の拠点」ということにな ります。

東京都市大学なら実現可能です。 そして、その条件は教職員の協働と 校友会の支援です。どうぞよろしく お願いいたします。

略歴

東京工業大学大学院理工学研究科長 工学部長

東京工業大学理事 副学長 東京都市大学総合研究所特任教授 東京都市大学副学長 国際センター長 専門分野:構造工学・橋梁工学

平成26年度定期総会・懇親会

平成26年6月21日(土)に東京都市大学世田谷キャンパス311教室での幹事会に引き続き、21C教室において会員117名が出席して第2回、平成26年度総会を、その後メモリアルホールにおいて懇親会を開催した。

総会では以下の通り、承認・報告された。

審議事項

1. 平成25年度事業報告

1. 校友会発足式

平成25年6月22日(土)渋谷エクセルホテル東急にて発足式を行った。

2. 定期総会・幹事会および常任幹事会等会議開催 平成25年9月28日母校世田谷キャンパスにて幹事会および 総会を開催した。

常任幹事会を8回開催し、業務執行上の重要事項について 審議決定した。

3. 学位授与式の「学位記ホルダー」の贈呈

平成26年3月19日学位授与式において、在学中努力精励し立派な成果をあげた学生に対し、各学科1名(計16名)に「校友会賞」を贈呈した。また、卒業生記念品として学位記ホルダーを贈呈した。

- 4. 「大学と保護者との連絡会」への支部会員の参加支援 本会支部11支部の役員が大学と後援会が共催する連絡会 に参加し、地元におけるOBの活躍状況、就職情報等の説明 などを行い、Uターン学生の就職支援の一助とした。
- 5. 学生への支援

平成25年11月16日に世田谷キャンパスにて、学生支援委員会と共催し、母校学生部委員会留学生就職支援プログラムの実施を図った。

- 6. 第5回ホームカミングデーの開催 平成25年11月24日に母校と世田谷キャンパスで共催した。
- 7. OB会への育成・支援

平成25年6月1日「楷の木会」が主催した環境情報学部・ホームカミングデーを後援した。

- 8. 地区代表者会議、職場支部長会議の開催 地区内支部長会議を5地区で開催した。 第5回職場支部長会議は開催を延期した。
- 9. 懇親ゴルフ大会および賀詞交歓会の開催 エエカ25 710 P21 P() 大芸児の選び上では

平成25年10月31日(木)千葉県の源氏山ゴルフクラブにて、 第1回親睦ゴルフ大会を開催した。

平成26年1月27日母校世田谷キャンパスにて「賀詞交歓会」を開催し(出席者132名),会員と五島育英会幹部および母校教職員との親睦・交流を図った。

2. 平成26年度事業計画

1. 会報の発行

東京都市大学校友会会報第1号の発行会報の名称を検討し、正式名称の決定

- 2. 幹事会、常任幹事会の開催 常任幹事会を開催し、必要事項の審議及び承認 幹事会を開催し、必要事項を決議
- 3. 総会、懇親会の開催

平成25年度の事業経過報告と収支決算の承認 平成26年度の事業計画(案)と収支予算(案)の承認 校友会会則・細則の改正(案)の承認

- 4. 会員名簿の作成、管理 会員名簿の統合、整理 キャンパス毎の管理用会員名簿の作成
- 5. 会員相互の親睦、交流 賀詞交歓会

親睦行事

懇親ゴルフ大会、観賞会 (相撲、演奏会、落語、ミュージカル等)

女性セミナーの開催

- 6. 各学部学科同窓会への支援 各学部学科同窓会への活動内容に合わせた助成金の給付
- 7. 地方支部、職場支部への支援・依頼 支部総会へは会長または役員を必要に応じて派遣 大学へ先生方の支部総会への参加に必要な情報の提供 地方支部への活動内容に合わせた助成金の給付 現役学生の就職活動支援、母校受験者への大学紹介支援 を支部に依頼
- 8. 在校生への奨学金・奨励金の給付 総額1,000万円規模の奨学金・奨励金を給付
- 9. ホームカミングデーへの参加 ホームカミングデー委員会の設置
- 10. キャンパス毎の学園祭に参加 学園祭に出品、出店する同窓会の団体に助成金を給付 校友会の同窓会員向けの「休憩所」を設置
- 11. ホームページの拡充と更新 校友会からのお知らせの更新、管理
- 12. その他

母校並びに校友会PRに貢献した人への奨励金の贈呈 功労者表彰および団体表彰

「大学と保護者との連絡会」への支部会員の参加支援 学位授与式の「校友会賞」の授与および新会員への歓迎 行事

3. 校友会会則・細則の改正

改正された会則はホームページをご覧ください。

4. 監査役の交代について

人事異動に伴い、大学選出の監査役を鈴木照海氏 (総務グループ部長) から橋本昌彦氏 (事務局長) に交代する。

5. その他

報告事項

1. 次期会長候補者について

現会長、常任幹事、幹事の任期は平成27年3月31日までとすることを幹事会で決定した。

- 2. 武蔵工業会・美砂会からの資産移行について
- 3. 武蔵工業会館現況報告
- 4. 常任幹事の交代について

大学選出の常任幹事を神宮進一氏(事務局長)から小久 保善生氏(総務グループ部長)に交代する。

5. 役員及び各委員会委員

6. その他

- 1) 支部委員会からの報告
- 2) 武蔵工業会館創立50周年記念事業への寄付

<贈呈式>

旭日双光章を受章された坂敏弘氏(北海道支部長 S41電 気)にお祝いを贈呈した。

平成25年度収支決算報告及び監査報告

一般会計			(単位:円)
* 8	平成25年		対子算機
	7 #	決算	
会 费	59, 644, 000	51, 838, 000	-7, 806, 000
H24年度卒業生	4, 664, 000	4, 544, 000	-120, 000
· H25年度卒業生	54, 980, 000	47, 294, 000	-7, 686, 000
※ 金 金 安	0	462, 790	462, 790
■ 総 会 (懇 親 会	0	0	0
質 詞 交 歓 会	€ 0	182, 790	182, 790
• ₹ の ft	b 0	280,000	280, 000
会银広告	0	0	0
その他収入	0	216, 135	216, 135
■ 賀詞交歓会祝金等	¥ 0	70,000	70,000
• 雜 収 2	. 0	146, 135	146, 135
・運用収フ	. 0	4, 292	4, 292
収入計	59, 644, 000	52, 521, 217	-7, 122, 783
主事業費	21, 766, 804	1, 687, 015	-20, 079, 789
■総会(懇親会)重		1, 022, 436	139, 392
• 会 議 引		618, 529	-381, 471
• 会 報 発 行 動		0	1 000 000
■学科同窓会支援 動		0	-4, 200, 000
• 支 部 関 連 <u>多</u>		46, 050	-2, 273, 950
■支部総会出張事		0	-3, 363, 760
 研究助成事 		0	0
	* 10,000,000	0	-10, 000, 000
■ 部活動表彰(奨励金費		0	0
卒業買連事業費	* 2,050,000	2, 035, 800	-14, 200
■ 学 位 記 ホ ル ダ -	- 1, 150, 000	1, 465, 800	315, 800
 校 友 会 3 		240, 000	-160, 000
• ガーデンパーティ를		330, 000	-170, 000
その他事業費	4, 460, 000	2, 135, 474	-2, 324, 526
	t * 1,000,000	30, 000	-970, 000
ホームカミングデー量		844, 000	-156, 000
ホームページ拡充・更新費	500,000	31, 980	-468, 020
■質詞交數会 動	500,000	799, 836	299, 836
	ŧ * 60,000	19, 658	-40, 342
■表 彰 者 記 念 品 動	100,000	0	-100, 000
大学と保護者との連絡会引	* 900,000	130, 000	-770, 000
 親 陸 会 行 事 多 	400,000	280, 000	-120, 000
* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	17, 700, 000	14, 718, 799	-2, 981, 201
■人 件 剪	12,000,000	12, 008, 036	8, 036
■通信交通 動	1,600,000	199, 731	-1, 400, 269
• (通信費	1,500,000	196, 931	-1, 303, 069
• (交通費	100,000	2,800	-97, 200
沙 外 事	500,000	239, 925	-260, 075
■ 備 品 多		870, 870	770, 870
事務用品 #		661, 493	-1, 838, 507
■ ED RN #		630, 840	130, 840
- 賃 借 *		107, 904	-392, 096
■周年積立金		0	0
# #	500,000	124, 519	-375, 481
・会費等返却全	0	0	0 0
子僧 贵	5, 000, 000	Ö	-5, 000, 000
支出計	51, 476, 804	20, 701, 607	-30, 775, 197
で 学生調達支出計(*印)	14, 010, 000	2, 215, 458	-11, 794, 542
	1 1 ' ' 1	1 1 1 11	
OB対象関連支出費計	37, 466, 804	18, 486, 149	-18, 980, 655∤
収入- 支出	8, 167, 196	31, 819, 610	23, 652, 414
(年度領越金	8, 167, 196	31, 819, 610	23, 652, 414

注]平成25年度は武龍工業会との費用の何リ分けから差異が生じた。 H25年度卒業予定者会費(4月~8月分)1,233名内駅 工学部-480名/知識工学部:192名/環境情報学部28名/都市生活学部134名/人間科学部71名

* 8	平成25年	皮	対予算	
* *	7 #	決算	ATA	111 7
15.保有资産				
 債券(国債) 	0	150, 321, 600	150, 321, 600	3□
• 現 金	0	130, 664, 913	130, 664, 913	解約利息1,8474円含む
会館株式(株券)	0	15, 060, 000	15, 060, 000	30,120株
黄 産 合 計	0	296, 046, 513	296, 046, 513	
16 . 特別会計現金収入				
会館株式(株券)				
■ 債券運用益	0	0	0	
一般会計から振替	8, 167, 196	31, 819, 610	23, 652, 414	
収入合計①	8, 167, 196	31, 819, 610	23, 652, 414	
17 特別会計現金支出				
 債券(処分額) 	0	0	0	
会館株式買取費	0	0	0	
現金支出合計 ②	0	0	0	
18 獨全权支合計 (①-②)	8, 167, 196	31, 819, 610	23, 652, 414	
19. 繰越資産合計	8, 167, 196	327, 866, 123	319, 698, 927	

東京都市大学 校友会資産の推移 ※位:						
		平成254	年度	分子算		
		予算	決算	AT#		
21	使券	0	150, 321, 600	150, 321, 600		
22	現金	8, 167, 196	162, 484, 523	154, 317, 327		
23	会館株式(株券)	0	15, 060, 000	15, 060, 000		
	合 計	8, 167, 196	327, 866, 123	319, 698, 927		

平成26年3月27日資産移	行内容				単位:P
	移管元	移管金額	ffii	考	
債券	武蔵工業会	150,321,600	国債3口		
現金	武蔵工業会	97,317,070			
	美砂会	33,347,843			
	合 計	130,664,913			
株券	武蔵工業会	15,060,000	武蔵工業会	館株券30,120株	
資産移管合計		298,046,513			

平成26年度収支予算

一般会計	Water to the	Websele de	(単位:円)	
# E	平成25年度 決算	平成26年度 予 算(案)	対前年増減 僧	#
1. 会 費	51, 838, 000	82, 872, 000	31, 034, 000	
 H24 年度卒業生 	4, 544, 000	0	-4, 544, 000	
 H25 年度卒業生 	47, 294, 000	14, 926, 000	-32, 368, 000	
 H26年度入学者 	0	16, 810, 000	16, 810, 000	
■ H26年度卒業予定者	0	51, 136, 000	51, 136, 000	
2. 辦会会費	462, 790	1, 810, 000	1, 347, 210	
総会(懇親会)	0	1, 000, 000	1, 000, 000	
■質問交飲会	182, 790	210, 000	27, 210	
その他	280,000	600,000	320, 000	_
3.会额広告	0	0	0	
1. その他 収 入	216, 135	392, 772	176, 637	
■質詞交数会祝金等	70, 000	50,000	-20,000	
*雑 収 入	146, 135	342, 772	196, 637	
5-温用収入	4, 292	0	-4, 292	_
収入計	52, 521, 217	85, 074, 772	32, 553, 555	
1.主事業費	1, 687, 015	30, 031, 050	28, 344, 035	
■ 総会(懇親会)費	1, 022, 436	1, 700, 000	677, 564	
- 会 議 費	618, 529	1, 200, 000	581, 471	
■会報発行費	0	7, 131, 050	7, 131, 050	
■ 学科 同窓 会 支 援 費	0	4, 000, 000	4, 000, 000	
■ 支 部 関 連 費	46, 050	4, 000, 000	3, 953, 950	
■支部総会出張費	0	2, 000, 000	2, 000, 000	
■研究助成費	0	0	0	
■ 在 学 生 奨 学 金 費 *	0	10, 000, 000	10, 000, 000	
■ 部活動表彰(奨励金費) *	0	0	0	
・ 卒業問連事業費 *	2, 035, 800	2, 250, 000	214, 200	
● 学 位 記 ホ ル ダ ー	1, 465, 800	1, 350, 000	-115, 800	
校 友 会 賞	240, 000	400, 000	160, 000	
■ ガーデンパーティ費	330, 000	500, 000	170, 000	
3. その他事業費	2, 135, 474	3, 080, 000	944, 526	
学生支援費*	30, 000	30, 000	0	
ホームカミングデー費	844, 000	1,000,000	156, 000	
■ ホームページ拡充・更新費	31, 980	200, 000	168, 020	
*質詞交数会費	799, 836	1, 000, 000	200, 164	
- 学 国 祭 協 赞 費 *	19, 658	150,000	-19, 658	
 表彰者記念品費 大学と保護者との連絡会費 * 	130,000	150, 000	150, 000	
			-130, 000	
	280, 000	700, 000	420, 000	
). 管理費	14, 718, 799	23, 400, 000	8, 681, 201	
■ 人 件 费 - ※ # * * *	12, 008, 036	15, 800, 000	3, 791, 964	
●通信交通費	199, 731	2, 300, 000	2, 100, 269	
(通信費)	196, 931	2, 200, 000	2, 003, 069	
(交通費) ●渉 外 費	2, 800 239, 925	100, 000 500, 000	97, 200 260, 075	
	870, 870	2, 000, 000	1, 129, 130	
• 備 品 費 • 事 務 用 品 費	661, 493	1, 500, 000	838, 507	
- 印刷費	630, 840	1, 000, 000	369, 160	
- 質 借 料	107, 904	300, 000	192, 096	
・ 月年積立金	107, 904	5, 000, 000	5, 000, 000	_
1・雑 費	124, 519	500,000	375, 481	_
2. 会责等返却全	124, 519	000,000	010, 401	
2. 17 個景	ŏ	5, 000, 000	5, 000, 000	
支出計	20, 701, 607	69, 261, 050	48, 559, 443	_
デース ロ III (駅)学生開連支出費計(*印)			10, 064, 542	_
OB対象関連支出支針 OB対象関連支出支針	2, 215, 458	12, 280, 000		
	18, 486, 149	56, 981, 050	38, 494, 901	
収入一支出	31, 819, 610	15, 813, 722	-16, 005, 888	
特別会計への振管	31, 819, 610	15, 813, 722	-16, 005, 888	

	平成25年度	平成26年度		
# 8	決算	予 算(案)	対前年増減	*
14.保有资産				
- 債 券(国債)	150, 321, 600	150, 321, 600	0	
• 現 金(含繰越)	130, 664, 913	162, 484, 523	31, 819, 610	
 会館株式(株券) 	15, 060, 000	15, 060, 000	0	
資 産 合 計	296, 046, 513	327, 866, 123	31, 819, 610	
15 特別会計現金収入				
■ 債券運用益	0	0	0	
一般会計から振替	31, 819, 610	15, 813, 722	-16, 005, 888	
収入合計①	31, 819, 610	15, 813, 722	-16, 005, 888	
16 特別会計現金支出				
 債券(処分額) 	0	0	0	
会館株式買取費	0	0	0	
支出合計②	0	0	0	
現金収支合計①-②	31, 819, 610	15, 813, 722	-16, 005, 888	
17. 課態資産合計	327, 866, 123	343, 679, 845	15, 813, 722	
·/· 林思其正日前	327, 800, 123	343, 019, 840	10, 813, 722	
18 (内敦)現金合計	162, 484, 523	178, 298, 245	15, 813, 722	

*	1	平成25年度 決算	平成26年度 予 算(案)	対前年増減	*
俊秀	(国債)	150, 321, 600	150, 321, 600	0	
裹	±	162, 484, 523	178, 298, 245	15, 813, 722	
会館	朱式(株券)	15, 060, 000	15, 060, 000	0	
周年	積立金	0	0	0	
合	211	327, 866, 123	343, 679, 845	15, 813, 722	

第2回親睦ゴルフ大会

平成26年10月30日(木)、千葉県市原市の源氏山ゴルフクラブにおいて、平成26年度 校友会親睦ゴルフ大会(第2回)を開催いたしました。五島育英会·菅澤正嗣理事と東京都市大学·学長代理として橋本昌彦事務局長をご招待し、正会員及び大学教職員合わせて37名が参加されました。

当日は天候にも恵まれ、皆さま方には日頃の実力を遺憾なく発揮されながら、会員相互の懇親をより一層深めることもでき、新たな校友会としての連携の輪が広がったのではないかと思っております。

成績等につきましては、校友会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

また、平成27年度の開催につきましては内容が決まり次第、ホームページでお知らせします。皆さま方の多数のご参加と、特に女性の参加をお待ちしております。

ホームカミングデー

◎平成26年6月7日(土)横浜キャンパス(楷の木会主催)

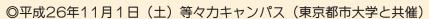
参加者:65名(卒業生:45名、教職員20名)

同日開催:特別講義「社会人になった君たちに贈る補講」

1限目 湧井 史郎 教授 『環境革命の時代』

2限目 吉田 国子 准教授 クロストークセッション『英語が私に

くれるもの~英語は私たちの何を変えるのか~』



卒業後50年1名、卒業後40年12名、卒業後30年29名、卒業後20年、10年0名、等々力会1期生16名と2期生8名、その他の卒業生6名で合計72名、現職20名、退職教職員11名、他14名、総合計117名が参加。

◎平成26年11月2日(日)世田谷キャンパス(東京都市大学と共催)

卒業後50年79名、卒業後40年23名、卒業後30年22名、卒業後20年10名、卒業後10年5名、該当学年以外51名で合計190名、五島育英会・東京都市大学関係者等78名、総合計268名が参加

平成26年度「朝活応援」企画(100円朝食)実施報告東京都市大学後援会、東京都市大学と共催

前期

実施期間 平成26年7月14日(月) ~8月6日(水)の平日(月~金)18日間 世田谷キャンパス 1,642食 横浜キャンパス 573食 等々カキャンパス 409食

後期

実施期間 平成26年9月22日(月) ~平成27年1月30日(金)の平日(月~金)





■ 親睦バスツアー そうだ! はとバスに乗って スカイツリーに行こう!!

平成27年2月21日(土)参加者36名

好天に恵まれ、江戸情緒あふれる街遊びを満喫できた一日となりました。 浅草観音 - 仲見世自由散策 - 東京スカイツリー 天望デッキ

- 昼食 浅草下町味覚 米久「牛なべ」 - 隅田川下り





「北澤宏一学長を偲んで」

東京都市大学 校友会 会長 松下 正勝

平成26年9月下旬、北澤学長の突然のご逝去の報に接し、ただただ驚きました。

謹んでお悔み申し上げますと共に心からご冥福をお祈りいたします。

北澤学長とは平成22年5月29日の武蔵工業会定期総会でご講演していただいた時、副理事長として初めてお会いいたしました。演題は「活動し始めた日本の大学と成果を生かすための政策」で渋谷エクセルホテル東急のホールが満員になりました。

その後、平成25年9月に東京都市大学新学長に就任された時、校友会役員と一緒に会食いただく機会がありました。その時、学長としての抱負を①東京都市大学の立地が東京・横浜で世界最大のメガシティにあり、都市問題を含めた知見を国内・海外に発信しなければならない。②グローバル化に対応した人材育成を進めるため、学生を1年間の語学訓練の後、海外の大学に留学させるシステムを構築したい。③学生にはボランティア活動を推奨し、例えば日本科学未来館等と連携しながら社会と接点を持つことが大切である。④校友会は全国に地方支部があるので支部活動に合わせて、一部学生も参加し、地域の子供達を招待して科学に興味を抱く企画を考えて欲しい。と飲み物も少し口にする程度で静かに熱く我々に語りかけていただいたのが深く印象に残っております。

そして、平成26年4月28日に北澤学長が直接、上田市長に掛け合って東京都市大学と信濃毎日新聞社主催で上田市創造館に於いて「東京都市大学シンポジウム in 上田」を開催し、約400人が集まりました。講演者は同市出身の理化学研究所の丸山瑛一氏(79歳)とノーベル化学賞受賞で筑波大学名誉教授 白川英樹氏のお2人にお願いいたしました。丸山氏は「世界的大発明と活かすべき日本の特許と技術」、白川氏は「昆虫少年がノーベル化学賞を受賞するまで」を講演されました。

また、北澤学長は本年(平成27年)9月5日(土)に静岡での開催を希望されたので、大学事務局で静岡駅前のホテルを既に予約しております。我々校友会も東京都市大学と一緒になって北澤学長の遺志を継承して静岡開催を是非実現する様、校友会役員と静岡支部役員と一丸となって準備してまいります。

北澤学長、安らかにお眠りください。そして、これからも東京都市大学と校友会を大空から見守っていただきたく存じます。 合掌

ご案内

平成27年度定期総会・懇親会のご案内

東京都市大学 校友会 平成27年度 定期総会・懇親会を下記のように開催いたします。 お一人でも多くの皆様のご出席をお願いいたします。

日時・場所:平成27年6月20日(土)渋谷エクセルホテル東急

受 付:12時30分~ 総 会:13時00分~ 講演会:15時00分~

懇親会: 16時30分~18時30分

議 題:1. 平成26年度事業報告

2. 平成26年度収支報告および監査報告

3. 平成27年度事業計画

4. 平成27年度収支予算 5. 役員および監査役の承認

6. その他

会 費:男性:7,000円 女性:5,000円 平成27年3月学部卒業生:1,000円

で出席される方は、住所・氏名・卒業年・卒業学科をで記入のうえ、郵便局にて事前振込をお願いいたします。手数料は無料です。なお、キャンセルの場合は定期総会協賛費として取り扱わせていただきますこと、ご了承ください。 6月5日(金)までにお振込をお願いいたします。

支部総会開催一覧

2015/2/9現在

			2013/2/35元11
開催日	支部名	場所	支部出席者数
4月2日(水)	鹿島柏会	鹿島 本社ビル 3階 社員食堂	40
5月10日(土)	京滋	ホテル京阪・京都2F	18
5月17日(土)	山口	シーモールパレス	20
5月17日(土)	島根	松江テルサ	12
5月23日(金)	京三柏会	萬珍樓 本店	
5月30日(金)	愛媛	伊予鉄会館	14
6月7日(土)	福島	東山グランドホテル	27
6月14日(土)	広島	ホテルセンチュリー21広島 4F	17
6月28日(土)	栃木	ホテルサンシャイン	総会 22 懇親会25
6月28日(土)	近畿 関西地区内支部長会議	大阪東急イン	28
6月28日(土)	秋田	秋田キャッスルホテル	34
7月4日(金)	東熱柏会	國泰飯店(京橋)	7
7月5日(土)	山形	山形グランドホテル	19
7月5日(土)	千葉	千葉スカイウィング 東天紅	28
7月12日(土)	東海 中部地区内支部長会議	トヨタ産業技術記念館	25
7月13日(日)	長野	松本東急イン	17
8月22日(金)	北海道	ホテルモントレエーデルホフ札幌	34
9月14日(日)	台湾	天成大飯店	25
9月20日(土)	熊本	KKRホテル熊本	22
10月11日(土)	静岡	プラサヴェルデ	44
10月15日(水)	福岡	平和楼	27
10月18日(土)	富山	富山電気ビル	25
10月25日(土)	佐賀	日浦屋	10
10月31日(金)	宮城	ハーネル仙台	25
11月1日(土)	大分	和食ダイニング・牧	10
11月8日(土)	中国·四国地区内支部長会議 広島	ホテルセンチュリー広島21	23
11月15日(土)	兵庫	神戸東急イン 3F 「ローズ」	19
11月28日(金)	飛島柏会	飛島建設本社(かながわサイエンスパーク)	21
1月31日(土)	和歌山	アンド・レギュウム	9
2月6日(金)~2月7日(土)	川崎市役所	熱海 金城館	46
2月7日(土)	新潟	万代シルバーホテル	33

◆広い北海道内の支部活動 報告

支部長 坂 敏弘(S41電気)

北海道は広く知床のウトロから函館までは約671kmの 距離があり、これは東京から岡山(668km)までと同じ 距離であります。

その広大な北海道での支部活動の一端を紹介します。

現在道内には道都札幌を中心とする北海道支部と帯広・ 釧路・網走の3地区での道東分会があります。また函館を 中心とする道南分会がありましたが参加者の減少で解散と なっています。

「東京都市大学 校友会」となった札幌での北海道支部 総会は8月22日に札幌のホテルで約40名の同窓生が集まり 開催されました。

この席に校友会監査役の堀内氏(S41電気)が本部来賓として出席され、現在の学校の様子や校友会本部活動状況についての説明を頂きました。

昨年4月に入学した北海道出身者の状況資料の配布・説明を頂きました。東京から離れている北海道にとって、このような情報は大切です。

会の最後は、現在の東京都市大学の校歌は誰も分からず、武蔵工大校歌斉唱で解散となりました。

今年も若い方の参加が少なく、卒年は追い越し禁止です

から下の方は、いつまでも下の後輩になっている現状です。

もう一つの道東分会は、今から30年前頃から、帯広・ 釧路・網走方面の3地区合同で集まろうで開催されている ものです。近年は参加者の減少で、2年毎に3地区持ち回 りとし、昨年は釧路で、11月1日に開かれ14名が集まりま した。その席に私も参加し、8月22日札幌での資料を参加 者に配布し校友会の現状を説明しました。まだ道東では、 武蔵工業会という色が強く、校友会になかなか溶け込めな いという感じでしたが、みなさん学生時代に帰った様に 若々しく賑やかな会でした。この地区会も参加者が年々少 なくなってきており、特に若い方の参加がなく悩みとなっ ているようです。

以上が2つの会です。近年はゴルフ会もせず、何かある と各学科の有志で小規模な会合を開いている状況です。

昨年の「大学と保護者の連絡会」が9月13日札幌のホテルで開かれ、父母15名が参加されました。父母の方々は、成績による進級状況や卒論への着手等が大きな関心でとのようでした。

我々OBからは「卒業されたならば、是非北海道の企業に就職し、帰って来て欲しい。北海道の企業は人材を求めていますが東京までは、なかなか求人票を出せない状況です。私たちOBへ問い合わせてもらえれば、業界の協会等

紹介出来ます」と発言させてもらいました。

これからは、現在名簿にある道内在住校友会会員477名 が一同に集まりたいものだ、と願っています。東京から遠 く広い北海道、学び舎を同じにした者同士、いつまでも友 好を温めたいものです。

◆山形支部総会と秋の例会

副支部長 庄司 岸夫(S43通信)

校友会山形支部総会は、7月5日(土)午後6時から山 形市内のホテルに校友会副会長の吉田勝様を迎え、盛大に 行われました。旧美砂会山形支部から3名、旧武蔵工業会 山形支部から14名の参加。武蔵工業会山形支部の女性3 名を含め、大変華やかな総会になりました。規約改正では 東京都市大学校友会山形支部として改訂、役員改選では旧 美砂会山形支部からも副支部長・幹事に入っていただきス タートする運びになりました。予算も旧武蔵工業会山形支 部のわずかな残金を組み入れ、校友会支部発足となりまし た。

懇親会では、吉田様から大学並びに校友会の現況をうかがい、出席者それぞれが自己紹介を兼ね近況報告、大変和やかな懇親会になりました。

秋の例会を庄内で開催との話も出て、盛り上がりました。 校友会山形支部としてスタートが切れたと安堵しました。 山形支部は山形全県をカバーするのですが、内陸と庄内 とでどうしてもお互いが集まりにくくなっています。山形新 幹線も内陸部(米沢・山形・新庄)ということもあり、内陸

と庄内(酒田・鶴岡)の行き来はおっくうになりがち。

11月8日(土)山形支部・秋の例会を酒田で開催。12名の参加。庄内から5名参加(総会時は2名)。日本海の魚に舌鼓。話も絶えませんでした。翌日はレクレーション。日本海沿岸でもあり、釣りやゴルフも企画しましたが、季節は晩秋、結局観光に。月山・羽黒山・湯殿山を祀る出羽三山神社詣で。三山神社までの庄内平野には、飛来したハクチョウが羽を休めていました。参拝後、羽黒山参籠所で精進御膳。

これからも、支部会員の皆様と親睦をはかり活動を推進 していきたいと考えています。



◆福島県支部

事務局 伴野 史典(H7土木)

福島県支部は、昭和26年(1951年)に設立され、会員 数は568名となっています。 平成26年度福島県支部総会は、6月7日(土)に会津若松市の東山温泉「東山グランドホテル」にて行われました。東山温泉は、8世紀後半の開湯と伝えられ、江戸時代には会津藩の湯治場として栄え、会津若松の奥座敷として発展した温泉街であり、本支部の総会が東山温泉で開催されるのは、実に29年ぶりとなりました。校友会から中埜豊幹事(S44土木)と石田彌幹事(S45電気)の2名を来賓としてお迎えし、支部会員を合わせて総勢29名の参加となりました。今回で40回目の開催となります。

これまで支部長を務めていた横山英夫氏(S32土木)が支部長を退任(新たに顧問に就任)され、佐藤安宏氏(S37土木)が新たな支部長として就任されました。親子3代にわたるムサコー出身者(ちなみに、佐藤支部長は2代目です!)であり、本大学にはとても思い入れの深い新支部長です。

事業経過報告や収支決算、本年度の収支予算案などについて議事が進められました。平成25年度事業経過報告では、いわき市で開催された支部総会(H25.6.1)、武蔵工業会定期総会への支部長出席(H25.6.22)、年会費納入者への総会資料・支部会員名簿の送付(H25.7)、郡山市で開催された大学と保護者との連絡会(H25.9.14)、福島県支部旗の製作(H26.2)、武蔵工業会臨時総会への支部長出席(H26.3.8)が報告され、平成26年度収支予算案では、総会開催や名簿印刷費、校友会本部への総会出席などについて承認されました。

また、校友会本部からは創刊号の会報をもとに、武蔵工業会と美砂会が統合され、東京都市大学卒業生も加わって新たな校友会が発足し、これまでの組織を継承しつつ、新たな活動を行っていくことについて、中埜幹事より報告をいただきました。

なお、今回は「東京都市大学 校友会」で開催した最初の福島県支部総会であり、福島県支部の旗を新しく制作することとし、デザインや色調が統一されていることから、校友会本部にお願いをして旗を制作しました(集合写真の後ろに写っています)。

総会終了後、18時から懇親会を開催しました。年に1回の懇親会であるため、久しぶりに会う旧知の仲間とともに、さまざまな話題で大いに盛り上がりました。最後の締めには、恒例の校歌を合唱し、賑やかな雰囲気の中、懇親会が終了しました。

翌日は、久しく行われていなかった支部長杯ゴルフコンペが「会津磐梯カントリークラブ」にて開催され、11名



東京都市大学 校友会 福島県支部

早成26年6月7日 於 東山グランドホテル

地方支部だより

のメンバーが参加し、中埜幹事、石田幹事とともに、ゴルフを通じて、さらなる親睦を深めました。

次年度の支部総会は、平成27年6月6日(土)に郡山地 区で開催される予定です。最後に、本総会が盛会裏に終え ることが出来ましたこと、校友会ならびに支部会員の皆様 に感謝を申し上げます。

◆茨城支部状況

支部長 須藤 賢一(S49土木)

茨城支部の活動は

- 1、総会・懇親会の開催(2年毎)次回はH27年秋を予定
- 2、大学と保護者の連絡会参加(9月)
- 3、校友会、関東甲信越支部長会議等への出席
- 4、幹事会の開催
- 5、ホームページによる支部の活動状況の報告等です。 総会・懇親会は平成25年11月水戸市三の丸ホテルにおいて北澤学長(当時)、松下会長、岩間関東甲信越地区代表(埼玉支部長、S40土木)のご参加をいただいて、卒業生38名が参加し盛会に開催されました。

北澤学長からは、学生と卒業生の交流の場を確保したい 等、東京都市大学のさらなる発展に向け積極的なお話があ り、ご期待しておりました。あまりにも急なご逝去の報に 接し非常に残念でなりません。この場をかりまして、謹ん でご冥福をお祈り申し上げます。

また、総会では恒例の近況報告として朝倉(S63機械) さんから「東日本大震災の復興に対するメーカーの取り組み」の紹介がありました。総会・懇親会の詳細は、熊倉(S45院電気) さんが茨城支部のホームページを立ち上げ、その中で詳細に紹介しています。東京都市大学校友会からもリンクしております。ぜひアクセスして下さい。

次回の総会は、今年(平成27年)秋の予定です。皆様 の積極的な参加をお待ちします。

幹事会は2~3か月毎に開催します。役員以外の参加を 歓迎しています。日時・場所につきましては茨城支部ホームページでご確認ください。場所は水戸駅から徒歩5分で 毎回同じ福徳食堂です。ご連絡をお待ちします。横のつな がりを広げたいと思います。

茨城支部の役員は次のとおりとなっています。

支部長・須藤賢一(S49土木)、副支部長・熊倉豊彦(S45院電気)・石村哲朗(S55院機械)・中島和行(S47電気)・小池精一(院S46土木)、幹事・朝倉伸治(S63機械)・君山浩一(S63土木)・米谷豊(H02機械)・吉岡博之(H08院土木)・大畠康宏(H20院機械システム)



幹事会

◆栃木支部だより

副幹事長兼会計 上野 拓也(H7経営)

栃木支部の平成26年度の活動状況報告、ならびに平成 27年度の活動予定についてご報告申し上げます。

平成26年度の事業計画については、

- 1. 名簿作成と支部ホームページの立ち上げ
- 2. 大学行事に関する協力
- 3. 本部総会への出席
- 4. 第38回支部総会、役員会の開催
- 5. 親睦事業開催ならびに会員拡大の取組み

を主要な項目に掲げて、積極的に活動を行っております。

栃木支部設立以来、毎年欠かさず実施している栃木支部総会を26年6月28日にホテルサンシャインにて開催しました。第38回目を迎える今回の総会は、支部組織名を東京都市大学校友会栃木支部に改めての記念すべき第1回目の会となりました。校友会会長の代理として出席の中埜 豊様(S44土木)、学長の代理として出席の大塚年久様(S53機械)を来賓に迎え、25名の支部メンバー参加の下、盛大に開催することができました。中埜幹事からは、校友会および大学の近況報告をいただきました。また、恒例となる講演会については、笠間四郎先輩(S39電気)より『戦後、建設技術の進歩について』という演題で、戦後の建設技術の進歩の変遷について、具体的な事例を交えて、清水建設在籍時の体験を踏まえてお話しを頂戴しました。

総会後の懇親会では、大塚教授にもご参加頂き、支部メンバーとの交流・懇親を深めることができました。

その他、支部活動の主要事項である栃木支部名簿作成および支部ホームページの立ち上げについてご報告させて頂きます。

10年ぶりの栃木支部名簿リニューアルについては、平成25年度から2度に渡って実施している栃木支部会員宛てのアンケート調査に基づき、支部データの更新作業を行っているところです。名簿掲載方法も含めて、27年度も引き続き協議・対応を行っていく予定です。

合わせて栃木支部独自のホームページ立ち上げについては、平成24年より数回の打合せを重ね、27年春にはホームページを立ち上げできるように準備を進めているところです。

今後の栃木支部活動の活性化に向け、多くの会員の皆様が栃木支部の活動をご理解頂き、会に参加して頂けるよう、支部ホームページを早期に立ち上げ、支部活動内容の定期的発信を行っていきたいと考えております。特に、若手会員が会へ積極的に参加して頂けるような魅力ある企画を行いながら、支部活動の充実化も図っていきたいと思います。

ホームページ立ち上げと支部名簿作成については、資金面での課題もあるため、少しでも会員の皆様のご理解・ご協力を頂けるようこれからも努めてまいる所存でございます。引き続き、皆様にはご指導・ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

◆千葉支部総会

幹事 村田 慎吾(S51土木)

校友会千葉支部総会は毎年7月第1土曜日に開催されており、昨年57回目となりました。千葉駅に隣接した千葉センシティータワー23階の東天紅にて開催されました。

総会議案は武蔵工業会より校友会へと名称が変更となったため千葉支部規約改正、昨年度の活動報告と今年度の活動計画の3議案であり、宮嵜支部長(S44土木)が議長となり説明され、全会一致で承認得ました。また今年の新役員が事務局より紹介されました。

総会に続き懇親会に入り、校友会松下会長、学長代理 として経営システム工学科主任教授の横山先生(S51経営)、校友会関東ブロック長の岩間さん(S40土木)がお 見えになり御挨拶を賜りました。

今回の懇親会は初めての参加者が3名おり、自己紹介をしていただきました。出席者数は来賓含め30名、例年より若干少なかったですが、懇親会は和やかに進行し、全員で校歌を合唱、記念撮影を撮り、お開きとなりました。2次会は居酒屋甘太郎で20名の出席で行われました。来年、健康で千葉総会に出席することを約束し、すべての行事が終了しました。

最後に毎年千葉支部総会に東京目黒より出席されておりました隈元先輩(S22土木)が一昨年11月に亡くなれたことを御報告いたします。 合掌



◆横浜支部活動報告

支部長 山田 秋夫(S35土木)

旧武蔵工業会横浜支部では、平成25年度までの総会・ 懇親会は、同窓会費を納入されている会員に限って郵便葉 書(概ね1300通・往復)にて通知して開催して来た。

一方、周知の通り、平成25年4月1日より旧武蔵工業会 と旧美砂会は、同日を以って東京都市大学校友会として一 本化された。

また、諸般の事情から、同窓会員としての入会金と年会費(終身)は大学卒業までに納入して頂くこととなり、すでに卒業された方は納入義務が無くなった。

この為、校友会横浜支部同窓会員総数8811名(平成26年8月27日現在、旧武蔵工業会5880名、旧美砂会2931名)のだれからも不公平感を抱かれないような手法で、しかも少ない経費で、総会・懇親会の開催を通知する方法を模索するため、平成26年10月8日校友会の松村(S49機械)支部委員長・後藤田(S44電気)企画委員長・田﨑幹事(S49国文)・事務担当者及び小生で協議した。

この結果、経費面の制約から郵便葉書による招集通知は出来ないが、今年4月全会員対象に校友会会報と総会通知を発送するので、それに支部総会・懇親会通知、参加申し込み要領等記載の「案内状」を同封することは可能であることを確認した。

このような経緯を踏まえ、平成26年11月8日及び12月20日に武蔵工業会館にて支部役員会(湘南支部・川崎支部役員参加)を開催し、以下の事項を内定した。

平成27年度の三支部総会・合同懇親会について

- ①開催日:平成27年10月3日(土) (横浜・湘南・川崎支部の3支部合同)
- ②場所:東京都市大学横浜キャンパス (懇親会は学生食堂、総会は各々別教室)
- ③会費:男性4,000円、女性3,000円(積極的参加を期待) ④ビンゴゲームを行う。
- 注・詳細案内は平成27年4月に発送される校友会会報と総会通知に同封される。
- ・平成26年度の支部総会・懇親会は時間的制約から開催を断念した。

◆湘南支部報告「湘南支部活動の原点」

幹事長 山根 公高(S46機械)

湘南支部は、平成23年8月27日(土)に東京都市大学3号館メモリアルホールにて設立総会を開催してすでに3年を経過しておりますが、主だった活動が出来ず、大変反省しているところであります。

その時の設立の目的は、武蔵工業大学卒業生、東京都市 大学在校生および潜在学生が多い関東圏、特に神奈川県で は、横浜支部、川崎支部はすでに存在するが、それ以外の 神奈川県内卒業生が活動する場がなかった為、支部を作っ て、一つの支部として、活動することでした。

支部活動は、何のための活動にするかが問題になり、ただ、有志の親睦会ではなく、支部会員の中でしっかりとしたネットワークを作り、困ったときにお互いに相談できる、面倒見合える、自ら参加をしたくなる支部を作ろうではないかということで設立をいたしました。特に、この思いが強かったのは、現支部長である大屋廣茂さん(S46機械)でした。それに賛同する方が役員になり現在に至っています。

東京都市大学 校友会湘南支部として新たにスタートするにあたり、先ずは神奈川県支部合同総会を10月に開催し、その他については以下の活動を中心にする予定です。

- ①支部名簿作成(支部会員に公開)、個人情報の漏洩問題 等もありますが、役に立つ情報として、できるだけ多く の情報を掲載したいと思っております。
- ②支部ホームページの立ち上げ(相談投稿広場開設)、支部会員、および希望する校友会OG・OBにパスワードを公開して、できるだけ多くの方が、自由に閲覧、利用できるホームページを目指しています。問題は、メンテナンスが大切で、かつ大変です。ホームページの強い仲間を募集します。
- ③支部会員相談会(役員を中心にネットワークを拡大)、ゴルフ会、旅行会、小中学生対象寺子屋会、120歳まで

地方支部だより

生きる会、娘・倅の結婚相談、ビジネス相談、国政への 立候補者の応援等、元気なボランティアでいろいろな目 的のネットワークの活動をまずは支部内で広め、次に、 支部を超えて広めてゆきます。

④大学は、後輩が育たなくては永続的発展はありません。 我々の得意な分野で学生に大いに影響をしてゆきたいと 思っています。学生の職場訪問、先輩の話を聞く会、学 校と会社間のコミュニケーション等を考えています。

すでに、3年たちましたが、設立の趣旨は、今での大屋 支部長中心に実行を進めていますが、予算もないため後々 になっています。出来るところからやってゆきたいと思っ ています。

◆川崎支部だより

支部長 赤津 武雄(S40電気)

川崎支部会員の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。さて川崎支部は旧武蔵工業会と旧美砂会が一緒になって、校友会としての支部総会を最初に行った支部です。そこで旧武蔵工業会と旧美砂会の役員で会の運営やイベントについて検討してまいりましたところ、一応の意見集約を得ましたのでここにご報告申し上げます。

校友会の集計によりますと出身大学別の川崎支部会員数は、武蔵工大1,842名、東横学園1,208名、都市大256名の合計3,306名となっています。これだけ年代も異なる多くの会員を抱える組織では、財政事情を勘案しながら継続可能な活動を心掛ける必要があります。そうした考慮の結果、イベントの候補として平成27年度はミニハイキングを実施することを目標といたしました。もちろんバスハイクも視野に入れておりますが、貸し切りバスを利用すると選択肢は広がるものの人数が集まらなくてはなりません。そこで数回は川崎市の歴史や文化遺産、自然を探索する小規模なものから始める所存です。将来はご家族での参加も考えられると思います。

現在第1回目として5月中旬に川崎市北部を念頭にコースの具体化を進めており、4月早々には皆様にご参加の呼びかけを行うことができるように作業を進めております。しかしこれとは別に皆様の推薦されるイベントやコースがございましたら、是非情報をお寄せいただきますようお願い申し上げます。以降の実施計画が固まることも大歓迎です。またその際にはぜひご案内役もお引き受けくださるようお願いします。

通信費の問題もありますので皆様へのご連絡は今後メールや校友会のホームページを利用することになろうかと思いますが、よろしくご配慮の程お願い申し上げます。なお支部窓口として副支部長の岸野哲(S42経営、kishino7@gaea.ocn.ne.jp)を指名いたしました。共々よろしくお願いします。

◆長野県支部の今後に向けて

支部長 上條 貢(S40土木)

本年は、長野県においてはいろいろな自然災害に遭遇し 大変な年でありました。特に御嶽山の噴火については、戦 後最悪の出来事でありました。 現在死亡者56名必死の捜索にもかかわらず第2次災害 懸念のため行方不明者7名を残し打ち切りとなりました。 亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、ご家族の 方々にお見舞い申しあげます。

全国より長野県の山を登山するため大勢の方々がおいでになります。長野県の県歌にも、「御嶽(2455m)乗鞍(3026m)駒ケ岳、浅間はことに活火山」と歌われていますようにいつこのような事故があっても不思議ではありません。

長野県には日本百名山の多くが存在しており長野県の観光資源であります。このたびの御嶽山は御嶽信仰の聖地であり多くの人々がこれに携わって生活しております。私ごとですが、松本周辺の山はほとんど登りました。一昨年脊椎管狭窄症の手術を受け、しばらく登山はストップしておりましたが、今年の夏は上高地帝国ホテルに宿をとり、孫(小1と小5)を連れて活火山である焼岳(2455 m)に登り山の冷気を満喫しました。

さて前置きは長くなりましたが、小生支部長を受け6年になりますが、今後若い後輩の皆さんが支部を引継ぎ活性化していただくことを願っております。長野県内には武蔵工大の卒業生750名、東横短大卒業生370名という都市部に次ぐ会員数を擁しております。この人的資源を生かして何かできるはずであります。平成21年から校名が東京都市大学に変更され校友会は平成25年4月から武蔵工大と東横短大の同窓会が合併し東京都市大学卒業生も加わりました。長野県のことは支部で企画して本部に報告するということでありますので、平成26年度はまず旧武蔵工業会と旧美砂会の長野県支部を合併すること、27年度は合併後の初総会を開催すること、これが小生の任期中の仕事と考えております。

最近の支部の活動を列記しておきます。

平成25年9月7日 関東ブロック支部長会(埼玉県)支部 長出席

平成25年11月6日 世田谷キャンパス見学会 支部から7名参加し、見学後の会議では今後の校友会運営の説明をうける。

平成26年4月27日 都市大シンポジウムin上田 上田出身 丸山瑛一(理化学研究所)白川英樹(ノーベル化学賞受賞 者)両氏の講演があり。支部は動員のお手伝いを致しました。大盛会のシンポジウムでありました。この企画は大学のPRになったと思われます。

平成26年4月30日 支部活動を円滑に行うために、都市大校友会本部に依頼し、個人情報保護を厳守することを条件に長野県関係分の名簿を支部にてお預かりしました。

平成26年6月13日 旧武蔵工業会と旧美砂会長野県支部の 支部長他で今後の方針を打ち合わせる。

平成26年7月13日 長野県支部総会を開催(松本東急イン)。





校友会本部より会長代理で堀内監査役都市大付属塩尻 高校赤羽校長、小林菊恵校友会副会長(S33家政)、美斉 津旧美砂会支部長(S54国文)、山岸旧美砂会副支部長 (S54国文)が来賓として出席された。

新たな決議事項として、旧美砂会長野県正副支部長に長 野県支部の役員となっていただき、平成27年度の校友会長 野県支部総会を軌道に乗せること。校友会長野県支部役員 会を開催すること。等が決議されました。

◆新潟県支部だより

支部会計 佐藤(旧姓大村) 国仁(S57土木)

まず初めに、私ことながら、現在新潟の地酒に凝っており ます。特に「朝日山」「麒麟山」(他にも新潟にはおいしい お酒はいっぱいありますが・・・) は、とてもおいしくいっ ぱい飲んでしまいます。皆様もお楽しみあれ。

さて、ここからが本題です。新潟県支部は、平成25年 に支部創立50周年を迎えることが出来ました。記念事業 として、「長岡大花火大会観覧」を開催し、校友会関係者 や会員及び会員家族の多数の参加をいただき、盛大に行う ことができました。大きな花火があがると、体に振動が響 くのは最高です。

また、平成26年度(第50回)には毎年恒例の2月第4週 の土曜日:2月22日(土)に支部総会を開催し、会務報 告・会計・功労者の表彰などを行いました。支部では現在 新旧役員の交代の時期となっており(多数の高齢の役員が 役員辞退を申しでている) 今回の総会で新支部長に日野浦 先輩(S48土木)を選出し、ますます世代交代が進み、フ レッシュで活発な活動をしていくことと思われます。

旧武蔵工業会と旧美砂会の統合そして東京都市大学卒業 生を加えた新しい東京都市大学校友会新潟県支部として運 営していくために、旧美砂会新潟支部の吉田育子支部長 (S37家政)と統合に向けた運動を展開しております。 現在の支部の問題点としましては、

- ①近年の個人情報保護から卒業生の名簿の非公開等によ り、新規会員の追加無し
- ②高齢の会員の退会などによる会員の減少とこれに伴う会 費の減少
- ③連絡費の増加に対する資金不足
- ④支部として、新しい会員相互の催しなどの計画・実施 などがあります。

①については、本部と対策を協議し徐々に解決してお り、新規行事として、昨年11月1、2日と試験的に幹事の 有志が宿泊・懇親会・ゴルフコンペを自費で開催いたしま した。今回はわずか4名の参加でしたが、紅葉の真っ只中 楽しい1日を過ごし、懇親を深めることが出来ました。次



平成26年度支部総会集合写真

平成26年11月有志によるゴルフ コンペ(於:津川CC)

回から早期の計画と広報を行い、順次大きな大会に出来る よう計画・検討していく予定です。

また、平成27年度の支部総会は、2月7日(土)に開催 しました。

◆静岡支部総会

支部長 千野 慎一郎 (S41建築)

■ 総会(407会議室) PM2:20~3:00

平成26年度 静岡支部総会を、10月11日(土) 沼津駅北口 にこの夏オープンしたコンベンション施設 プラサヴェルデ の会議室に於いて、会員の参加36名(旧武蔵工業会28名、 旧美砂会8名)、ご来賓8名をお迎えして開催しました。

開会に先立ち、急逝された北澤宏一学長に黙祷を捧げま した。

総会では千野支部長の挨拶の後、ご来賓の校友会会長の 松下正勝様と副会長の小林菊恵様からご挨拶をいただきま した。

議事では支部長より会務報告が行われた後、新たな会則 案と役員案が提案され承認を受けました。



全員集合写真

■ 講演会(407会議室) PM3:00 ~ 4:00

東京都市大学名誉教授の住吉洋二先生(S45建築)にご 多用の中ご講演いただきました。演題は先生が30年以上 関わってこられた「山形県金山町街並みづくり100年運 動」について、パワーポイントの映像とトークで東北の ユートピアに誘われました。





講師の住吉洋二先生

■ 懇親会(402会議室) PM4:30~6:30

開宴後、ご来賓の東京都市大学工学部長 湯本雅恵先生 (S47電気) からご挨拶とパワーポイントによる学校紹介 をしていただきました。90才の顧問 髙村豊さん(S18土 木)の乾杯のご発声の後懇談となりましたが、今回は美砂 会の女性参加により華やいだ楽しい会となりました。

宴中で、急逝された北澤学長の学長付渉外担当の斉藤さ ん(S44建築)からも経緯をお話しいただきました。

地方支部だより







女性グループ席

全員による校歌(武蔵工大)合唱

◆東海支部 平成26年度報告と平成27年度予定 支部長 秦 俊道(S45機械)

東海支部は、愛知県・岐阜県・三重県の3県にまたがる 支部であり、私は残存する資料で判明する限りでは7代目 の支部長として、平成24年に支部長を拝命しました。

平成26年度の活動概要は下記のとおりです。

期日	活 動 名	参加人	場所
2/14(金)	会社見学	10名	トヨタ自動車・元町工場
3/16(日)	ゴルフコンペ	8名	愛知カントリー倶楽部
4/23(水)	役員会	10名	成瀬化学工業
6/11(水)	役員会	10名	成瀬化学工業
7/12(土)	総会	30名	トヨタ産業技術記念館
7/20(日)	ゴルフコンペ	6名	愛知カントリー倶楽部
9/7(日)	大学と保護者との連絡会	6名	ホテルキャッスルプラザ
9/10(水)	役員会	6名	成瀬化学工業
10/11(土)	静岡支部総会へ参加	2名	プラザヴェルデ
11/26(水)	忘年会	11名	魚忠本店
	合計(延べ人数)	99名	

2月14日(金)の会社見学は、トヨタ自動車の本社ひざ 元に在る"元町工場"で、ここはクラウンやエスティマを生 産している所です。トヨタ自動車には本校卒業生が多く就 職しており、今回は支部幹事の岩田正氏(H1機械)が仲 介の労を取ってくれて実現した企画です。7月12日(土) の総会では、大学から工学部原子力安全工学科教授の松 本哲男氏(S48電気)、校友会から常任幹事の松村慶一氏 (S49機械)、静岡支部から千野慎一郎支部長以下4名を 来賓としてお迎えした。そして松本教授には「東京都市大 学における原子力・放射線教育研究の現状と今後の課題」 と題して講演して頂いた。9月7日(日)の「大学と保護 者との連絡会」では、機械・建築・土木・電気・通信の各 科からOBを出して総勢6名の布陣で対応した。11月26日 (水) の忘年会では、東京都市大学の新しい校歌をバック グランドミュージックに、和気あいあいの内に1年の活動 を締めくくった。

平成27年度も前年と同様の内容を計画している。特に2月 に予定している会社見学では、平成25年度の総会にて「町 こうばのブランド作り」と題して講演して頂いた(株)蒲郡 製作所代表取締役・伊藤智啓氏(S57機械)のご協力を得 て、本社工場を見学させて貰うことになっている。

◆京滋支部だより

支部長 乾 康一(S48建築)

早いもので支部長を拝命して2015年春で規定の3年にな ります。

故北澤学長がお元気な ころ「是非、京滋支部総会 にお越しになり古都の良 さを満喫してください。」 と申し上げたところ笑顔 で「是非行きましょう。」 と仰っていただいたこと



源光度

が忘れられません。ほんのちょっとの出会いではありました が懐の深いお人柄に接し感激いたしました。

私事で恐縮ですがとっくにリタイアの世代ではあるので すが現所属の会社の東京支店に会社の段取り(支店長代 理) で計宅をあてがわれ週日は全日単身赴任で東京におり ます。時代の要請か耐震補強の特殊工法の技術営業に走り 回っています。従いましてなかなか支部のために汗をかく ことが出来ず申し訳なく思っております。それでも春は 吉田校友会副会長をお招きして琵琶湖畔のウオーキング・ バーベキュー会を開催し、春と秋には湖都会と称してゴル フのコンペを行い、わきあいあい楽しく交流を深めており ます。支部の諸君のご尽力に改めて感謝します。総会は毎 春京都駅前の京阪ホテルにて開き二次会では顔見知りに なった仲間どうし家族のような会話に時間も忘れるぐらい 飲みました。もっともっと交流の輪を広げたいのですが物 理的に東京にほとんど滞在している身ですので、今後は次 期支部長にバトンを渡し、私はさらなる支部の発展に微力 ながら力を注ぎたいと思っております。

江戸で生活するのにはと通勤電車のなかで藤沢周平の短 編小説を読んでいます。とてもさわやかな江戸の風俗習慣 が読み取れ電車の窓から垣間見る荒川と東京湾の景色に接 し江戸時代の町民にタイムスリップする心地よい錯覚に落 ちたりしています。

この便りを書いているころは例年京都も紅葉の季節で入 ケッチにしました洛北源光庵とか嵯峨野の寺々も私にとっ ては自宅近郷のホッとする空間です。

校友会の益々のご発展を願い筆を置きます。

◆和歌山支部だより

支部長 那須 敏夫(S49土木)

平成26年3月16日、第3回和歌山支部総会を和歌山市内 の「city和歌山内アンドレギューム」で開催し、滞りなく 終了いたしましたことを報告申し上げます。

さて、支部を設立して早や二年が経過しました。平成 26年度は、庄司敬一(S51土木)、竹内哲治(S63経営) 両名に初参加して頂きました。新しいメンバーも迎え、大 学時代・社会人としての情報交換等いろんな話に花が咲き 懇親会も盛況のうちに終えることができました。また、紀 南地方の方々は昼間仕事柄、土・日に休めない方がいます ので串本でも行うことにいたしました。

串本での懇親会は、当初8月10日に予定していましたが 台風で延期を余儀なくされましたが、少し遅れて10月25 日(土)に開催、一泊して中村洋介(S53機械)会員の紹 介で今話題の養殖クロマグロ(赤身、中トロ、大トロ)の 会席料理で舌鼓をうちながら串本の良さを満喫いたしまし た。参加者は4名でしたが和気あいあい親交を深めること

ができました。27年度も本年度と同様2カ所で行いたいと 思っています。

平成25年から、東京都市大学卒業生が輩出され、それ を機に「東京都市大学校友会」として、旧武蔵工業会と旧





美砂会とで支部活動を行うことにより、会員もものというではいることを期待を関係していることを明待をできないます。しかし、構築しているが大きな山支のが大きな山支がが大きないできたががれる。一人でき、会員のできればと思います。

◆岡山支部

事務局 山本 紘之(H12土木)

平成21年4月、武蔵工業大学と東横学園女子短期大学が統合され、東京都市大学となった。4年後の平成25年4月、東京都市大学初の卒業生輩出に合わせ、同窓会についても武蔵工業会と美砂会が統合され、東京都市大学 校友会が発足した。

岡山支部においてもこれまでの武蔵工業会 岡山支部を 東京都市大学 校友会 岡山支部として事務局を引継ぎ、現 在、平成26年度中の支部総会開催に向けて準備を進めて いる。

岡山支部は平成22年度に10年ぶりに再立ち上げし、隔年で支部総会を開催するなど、これまで細々ながらも活動をしてきた。事務局の宣伝不足であることは否めないのだが、岡山支部総会への参加者はまだまだ少人数である。校友会として同窓会が統合され、支部の会員が増えたこの機に、一人でも多くの方に校友会岡山支部の活動に参加をいただき、毎年の支部総会開催を目指していきたいと考えている。また、東京都市大学となってからの若い卒業生の方も着実に増えつつあるため、是非若い方にも加わっていただき、年齢層にも厚みがある賑やかな支部になればと思っている。

東京都市大学 校友会のWebサイトでも紹介されていたが、ある新聞記事によると、企業の人事担当者の評価では、東京都市大学は、対人力や独創性において高い評価を得ているようである。

今や一人1台のパソコンに留まらず、スマートフォンやタブレットを持ち歩き、大量の情報を扱い、いつでもどこにいても仕事ができる(せざるを得ない?) I T化された環境となっているが、I Tは所詮人間の道具でしかなく、我々はこれらの便利な道具を活用しつつ、コミュニケーションや個々の創造力を駆使して仕事をしている。このコミュニケーション能力や独創性といった、仕事をする上で必要となる実務的な能力の備わった人間を東京都市大学は輩出しているという評価であり、評価の対象者は卒業生である。

かつて私が学生だった頃の単科大学の武蔵工業大学は名称を変え、今や6学部18学科の総合大学となり、私が学生だったころからは考えられない規模の大学となっている。既に進行しつつある少子化の中で、いかに優秀な学生を確保していくか、大学としてもいろいろと努力されていると思うが、実は我々卒業生が社会でどのように評価されるのかが、結果として大学の評価に繋がっていくことを改めて考えさせられた。

◆愛媛支部の近況報告

副支部長 牧 隆司(S46電気)

平成23年6月に産声を上げた我が旧「愛媛武蔵」は平成27年にはもう5年目目を迎えようとしております。東京都市大学校友会という文字にも親しみを覚えるようになったこのころです。

11月中旬に広島で「中国・四国地区支部長会議」がありました。支部発足以来小生が出席している関係で今回も参加してまいりました。そこで感ずることは、異郷とはいえど、同窓であることに、多少なりの和みを感じ、参加させてもらっていますが、支部のできていない県もあると聞くと少しばかりの寂しさを感じます。「地域にしろ、同級にしろ、同窓にしろ、やはり世話人が・・・」というものなんでしょう!

わが愛媛支部も誕生以来まる4年を過ぎ5年目になりますが、世話の「核」になる人のおかげで、またゴルフ好きがいるおかげで、そこそこ活動できています。年間を通じて、役員間の打ち合わせ、総会を含め年4回以上の賑やかな「集い」、年2回以上のゴルフも、先述のゴルフ好きのおかげで楽しんでおります。平成25,26年とジャンボ尾崎の設計になる J クラシックで炎天下のプレイを楽しみました。シニアにはちょっと距離があるかも・・・! 12月には合同コンペがあり、プレイ後は忘年会、一次会二次会、そしてカラオケ・・・。それぞれどの分野にも「やり手」がおり、場を盛り上げました。

広島での中四国の方々のゴルフの集まりも提案させてい ただいております。

そんな中で今年の一押しは村松繁さん(S50電気)の宇宙・天体に関する講演でした。そこに見える空から10¹⁰~







少数精鋭のゴルフ

暗黒宇宙の謎谷口義明先生



役員会 村松さんと宇宙の仲間

都市 vol.02 | **14**

地方支部だより

10²⁰m離れた宇宙まで、まるで手に採るような講演には 我々はあっけにとられました。私も電気卒ですが「こんな に違うのか・・・」と恥ずかしくなりました。

2015年の一押しはベトナムでご活躍の金森昭さん(S47経営)の講演を予定しております。

地方創生のうねりの中で、わが愛媛県は大先輩建築家の 故松村正恒(S10建築)、ノーベル文学賞受賞の大江健三郎、同じくノーベル賞の中村修二、そしてゴルフの松山英 樹、愛媛からメジャーへ、同じく歌手レーモンド松屋、済 美高校~楽天の安楽智大投手、サッカー日本代表長友佑 都・・・等の人物を輩出し、これからもまだまだ・・・わ が愛媛支部からも出るかもよ! (?)

以上今後の方向を探りつつ、近況報告とさせていただきます。今後一層の東京都市大学校友会の発展を祈ります。

◆島根支部だより

支部長 今崎 一治(S44経営)

旧武蔵工業会時代に、島根県の会員数が60名程度であるので島根支部を設立してほしいと依頼があり、平成25年1月に支部設立準備会を行い、3月に支部設立の幹事会を経て、武蔵工業会島根支部は平成25年5月18日に設立しました。

設立総会には松下理事長(S40土木)、松村常務理事(S49機械)、縫部中国・四国地区代表(S43土木)のご臨席を賜り、支部会員11名での出発となりました。会員の自己紹介では30分近く講演する方もあり卒業以来の思いを強く語られました。特別講演は安味名誉教授(S33機械)にお願いし、精密工学会誌に投稿された先生の随想「私の歩んできた道」から波瀾万丈の人生をお聞きし感銘しました。懇親会では松村常務理事から「武蔵工業大学から東京都市大学へ」のスライドショーがあり、ムサコー時代にタイムスリップして楽しい時間を過ごせ、島根支部の設立が出来た事をあらためて良かったなと思いました。

平成25年、私は武蔵工大と縁があって半世紀が経過いたしました。また、島根県の出雲の国では、縁結びの神の出雲大社の60年ぶりの遷座祭が行われました。まさに記念すべきこの時に、この出雲の地で設立総会が行われ感慨深いものがあります。

平成26年度総会は松江テルサで5月17日に開催されました。出席者8名で、来賓として松村常任幹事、石田幹事(S45電気)、縫部中国・四国地区代表の3名のご出席



武蔵工業会島根支部設立総会

平成 25 年 5 月 18 日 於:松江テルサ

をいただきました。総会では松村氏より地区の活動一覧 (案)に基づき説明を受け島根支部としてどんなことを取 り入れたらよいか検討し、会員の皆様からの意見を待つこ とにしました。翌日の18日は出雲空港カントリー倶楽部 で6名の参加でゴルフコンペを行いました。

11月8日に行われた中国・四国地区支部長会議で各支部の活動状況を参考にして、島根支部の今後の活動を取り組みたいと考えております。支部長会議後の広島支部の懇親会では「島根は出雲大社の千家国麿さん、高円宮典子さんのご成婚やテニスの錦織圭選手の活躍で話題豊富なところですね。」と何人かの方から声をかけていただきました。

平成27年度の事業予定は1月に役員会を行い、5月に総会の予定です。一人でも多くの会員が顔を合わせられる支部にしたいと考えています。

◆熊本支部総会報告

支部長 東 求 (S46土木)

平成26年度熊本支部総会が、9月20日熊本城を仰ぎ観る「KKRホテル熊本」に於いて、本部から松下正勝会長を来 賓としてお迎えし、和やかな雰囲気の中開催されました。

今回は、旧武蔵工業会と旧美砂会とが統合し、初めての記念すべき第1回の総会として21名(旧武蔵工業会16名、旧美砂会5名)の参加がありました。

来賓祝辞として松下会長が校友会の現状と26年度の取り組みについて熱く語られ、会員一同、意を強く持った次第であります。

園田増雄氏(S47機械)の名司会により役員改選、会則等の議案もスムーズに承認され早々と総会を終える事が出来ました。これもひとえに同窓の皆様のお蔭だと感謝致しております。

立山典子熊本副支部長(S46国文)の乾杯のご発声により懇親会が始まり尾山台、等々力界隈を闊歩した青春時代に戻り、時間を忘れ、大いに飲み、語り合う事が出来ました。再会を祈念し万歳三唱で1次会を終了し、男性諸君はネオン街へと繰り出して行きました。

今回は旧美砂会のお嬢様と若い青年大石洋君(H11電気)の参加により「華と若さ」に満ち溢れた同窓会ができたことに感謝し、東京都市大学及び校友会の益々の発展をご祈念申し上げ、支部総会の報告を終わります。



◆大分支部だより

支部長 安部 實(S40通信)

【平成25年度支部総会・懇親会】が平成25年10月26日 (土) 別府亀の井ホテルで開催。支部総会の前に九州沖縄 地区長会議が、東京都市大学 校友会になって、初めて開 催され、校友会本部から松村慶一(S49機械) 常任幹事、 東求(熊本支部長S46土木)九州沖縄地区代表、衣斐喜美 子(S55家政)幹事、旧武蔵工業会から宮崎を除く九州・ 沖縄各支部および旧美砂会から熊本、宮崎、鹿児島(2 名)、沖縄の各支部の代表合計14名に長崎支部長の同伴 夫人の参加を得て総勢23名の懇親会が行なわれました。 (「武蔵」最終号にて既報)

【平成26年度支部総会・懇親会】が平成26年11月1日 (土) 大分市内の和食ダイニング牧で開催され、総会では 校友会発足に伴う会則の修正、役員改選が主議題で、今後 2年間の役員が次の通り決まりました。

[平成26・27年度役員]:支部長 安部實(S40通信)、副支部長 野原誠(S51土木)、幹事長 児島靖正(H09機械)、会計 三枝清秀(S56経営)、会計監査 大塚裕治(S49経営)、幹事 田原豊久(S45通信)、後藤謙治(H10土木)、佐藤匡輝(H13機械)、弦本健幸(H03電気)、後藤憲二(S63建築)、甲斐田すみれ(S47国文)、相談役豊福紘一(S38通信)

旧美砂会から甲斐田すみれさんの出席があり、役員に 入ってもらい、今後の新生大分支部組織化に向けて明るい 展望が持てるようなりました。 総会終了後の懇親会では、校友会会長代理として堀内則 量監査役(S41電気)を迎え合計8名で和やかなひと時を 過ごしました。





職場支部だより

◆横浜市役所支部

支部長 内海 貴志(S56土木) 事務局 佐丸 雄一郎(H16土木)はじめに

横浜市役所支部は平成25年度をもって、創立50周年を迎えることとなりました。発足当初わずか数名の会員であったものが、現在では現役会員、賛助会員合わせて145名を数えるまでに至り、職場支部の中でも有数の規模を誇る組織に成長できました。これもひとえに、大学ならびに東京都市大学校友会のご支援の賜物と、心から感謝申し上げます。

この間、母校も武蔵工業大学から総合大学として東京都市大学へと変貌し、支部も多様な卒業生を会員として迎えることができるようになりました。50周年を経て、新たな船出を迎えた支部としても、今後の活動が重要となっています。

平成26年度活動報告

(1)総会

平成26年11月27日(木)に、横浜クルーズ・クルーズにて開催(出席者約40名)され、平成25年度の会計報告と役員選出そして平成26年度の予算(案)について承認された。当日は、工学部都市工学科の平成27年度就職活動担当である吉川教授を迎え、各種プロジェクトの活動報告、賛助会員からの挨拶、平成26年度入庁者から抱負の

発表などが行われました。

(2)入庁者確保プロジェクト

横浜市では「人材こそが最も重要な経営資源」と捉えており、人材の確保と育成が大変重要です。入庁者確保プロジェクトは平成17年から開始され、大学への説明会への参加、論文添削、模擬面接を実施しており、現在まで総勢44名が、プロジェクトにより入庁しています。

(3)係長昇任プロジェクト

横浜市役所支部では、入庁後のキャリアアップの支援として、係長昇任試験対策を実施しています。管理職を務める会員による模擬面接の実施等を行い、平成26年度は2名の合格者を輩出しています。

おわりに(平成27年度活動予定)

前年度と同様に、総会の実施や各種プロジェクトを着実に 推進することで、支部として強固な地盤を築いていきます。

更にこれからは、人口減少・超高齢社会を迎え、それら



平成26年度入庁舎抱負

平成26年度総会状況

職場支部だより

に起因する深刻な課題について、ハード、ソフト両面から総合的に取組んでいかなければならない時代に入ってきています。市役所の様々な部署で活躍している会員が、お互い協力しあいながら課題に対応して横浜市政を支えるとともに、将来にわたり仲間が集う港となり続けられるよう、これからもさらに発展させていきたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

◆川崎市役所支部 近況

佐々木 奈々 (院H24都市基盤)

川崎市役所に入庁してから、早いもので2年が経ちました。働くという事や人と人とのつながりを強く感じた2年間は、初めて聞く言葉や業務内容を覚えるのに必死で瞬く間に過ぎていき、異動希望を書く3年目となりました。

私の所属する港湾局川崎港管理センター整備課では、羽田空港にほど近い浮島地区や、川崎マリエンのある東扇島等の港湾地区を管轄しています。川崎港は首都圏物流の重要な拠点となって東京、横浜と共に京浜三港に属し、海外との交易も盛んに行っています。その中で、私は港湾施設の維持管理を管轄する係に属し、港湾地区の施設の建設、改修、維持補修を主な業務として行っています。毎日、国内外から川崎港を利用しにやってくる多くのコンテナを積んだ船を一望できる環境で、緑地の管理や桟橋の補修等を担当しています。より身近な施設の維持補修を行う事で、多くの方々に安全に利用していただける事に喜びを感じます。また、維持管理分野は幅広い工事や委託に携われることが魅力の一つであり、その分多くの知識が必要である為、日々努力と勉強の毎日です。

川崎市役所支部の活動においては、卒業予定者を対象とした企業説明会に参加しています。OBから話を聞く説明会の場は、現役学生に就職案内パンフレットやホームページの内容以上に、より深く川崎市の職場への理解と業務への興味を持ってもらえる良い機会となっていると思います。説明会に臨むに当たり、事前に資料をまとめ、多くの質問に答えられるように時間配分なども考えています。その活動は、川崎市に興味を持ち、入庁する後輩が多くなってきている一因となっていると自負しています。

川崎市役所支部の会員数は現在77名であり、平成25年は、川崎日航ホテルで創立50周年記念式典が、平成26年は熱海で総会が開催されました。私は熱海の総会には都合が悪く参加することができませんでしたが、平成25年の川崎日航ホテルの式典では、多くの諸先輩方が参加されており、各職場の話などをたくさん聞かせていただきました。その際に、川崎市のOBの結束の強さをとても強く感じ、その一員であることに誇らしい気持ちになりました。

今後も、東京都市大学校友会川崎市役所支部総会や年間 行事に参加し、仕事をしていくことで改めて諸先輩方が築 き上げてきたモノの重みを感じ、その仲間であると実感し ながら今後川崎市に入庁する後輩たちにも誇れるように仕 事に臨みたいと思います。

最後に、東京都市大学校友会のご発展と会員の皆様のご 健康と各界、各分野でのご活躍を祈願し、支部便りとさせ ていただきます。

◆アズビル柏会(旧山武武蔵会)支部 近況報告 支部長 永井 雄三(S62電気)

平成24年6月、紺野真支部長(S46電気)が退社された

後を引継ぎ、支部長を仰せつかりました。

弊社は平成24年3月に株式会社山武から社名をアズビル 株式会社に変更しました。

卒業生は2014年3月時点で社内で96名が在籍しており、 全国各地で活躍しています。

平成26年2月5日、横浜桜木町の横浜ブリーズベイホテルにおいて久しぶりに支部総会を開催しました。

当日は交通機関のトラブルがあったにも関わらず、首都 圏を中心に40名のご参加を頂き、紺野前支部長からの乾 杯の音頭とともに総会を開始しました。

日頃は同じ社内(事業所)でお互い卒業生とは知らずに 働いていた方も多く、認識を新たにでき非常に有意義な場 であったと思います。

またその際、世田谷キャンパスの近況写真をプロジェクターで紹介したところ、大部分の方々が懐かしさとともに、近代化したキャンパスの変貌に驚いていました。

ここ数年で大学名、会社名が共に変わり、新たな卒業生も入社しました。名残り惜しいとのご意見もありましたが、この機会に支部名変更を提案し、「山武武蔵会」から「アズビル柏会」への変更を参加者に承認いただきました。

今後も出来るだけ定期的に支部総会を開催し、卒業生間の親睦に役立てていきたいと思います。

最後に、東京都市大学ならびに校友会の益々の発展を祈念するとともに、遅まきながら支部長就任のご報告とさせて頂きます。



◆飛島柏会支部 平成26年度総会・懇親会開催報告

事務局 川里 麻莉子 (H21都市基盤)

11月28日(金)、平成26年度飛島柏会総会・懇親会がかながわサイエンスパーク内レストラン「ウィズ・ア・スマイル」において、東京都市大学都市工学科より皆川勝先生(S54土木)、吉川弘道先生、東京都市大学校友会より松下正勝会長の3名をご来賓としてお迎えし、当社代表取締役社長伊藤寛治様をはじめとする社員4名、飛島柏会支部OB・現役会員16名の総勢23名が集結し、和やかな雰囲気の中、開催されました。

荒尾拓司支部長(S58建築)の開会挨拶から始まり、ご 来賓の紹介、伊藤社長のご挨拶、袴田歩会員(S55土木) の乾杯のご発声で会がスタートしました。皆様、久しぶり の再会に笑顔があふれ、会場はパッと明るくなりました。

ご来賓の皆様にご挨拶をいただき、お食事とお酒も進む

中、毎年恒例の会員による近況報告の時間になりました (飛島柏会のメインイベントといっても過言ではないのです)。会員一人一人がステージに上がり、仕事の話に限らず、プライベートのことも話したり、時には突っ込みの声が入りつつも、今年も笑顔が絶えない時間を過ごすことができました。また、今回、残念ながら出席できなかった会員の皆様のメッセージも回覧しました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、津川優司会員(S52土木)の閉会の挨拶と手締めでお開きとなり、最後に記念撮影を行いました。

飛島柏会支部という大学OBのつながりは、気軽に何でも相談できる社内ネットワークの役割も果たしています。年に一度の総会・懇親会ですので、皆様が楽しく有意義な時間を過ごせるそんな会を継続していきたいです。また、今後も校友会の一員として、飛島柏会支部、校友会の発展に少しでも寄与していけたらと思います。





◆鹿島柏会支部

事務局 藤本 健(H10電気)

■支部紹介

鹿島柏会支部は、東京都市大学(旧:武蔵工業大学)を卒業し、鹿島建設・グループ会社に在籍する社員にて構成されております。現在、在籍会員が170名強であり、会員相互の親睦を深めることを目的とし、活動しております。毎年、4月に支部総会兼新入会員(新入社員)歓迎会を開催しております。また、近年は、東京都市大学の学生に対し、建設業界・鹿島建設グループの情報提供を行い、就職活動の一助となるよう活動を行っております。

■平成26年度活動報告 4月

平成26年度は4月2日に校友会吉田勝副会長(\$43建築)、丸山教授(\$58土木)、皆川教授(\$54土木)、勝 又教授(\$55建築)、西村教授、桐生教授にご臨席賜り、 支部総会兼新入会員(新入社員)歓迎会を鹿島建設本社に て開催いたしました。会に先立ち、新入社員には、写真つきで自己紹介、入社後の抱負、好きな異性のタイプ等を提出してもらっており、歓談のツールとして当日これを配布いたしました。新入社員相互、先輩後輩相互の話題のきっかけになっていたのではないかと思っております。本年は初めて、都市生活学部から入会(入社)があり、今後は、工学部からのみならず、多様な学科からのますますの新規入会を個人的に期待しているところでございます。会は、新入社員からの抱負を語っていただき、また、校友会副会長・学校先生方から門出のお言葉をいただき、終始笑いのある会だったのではないかと感じております。

■平成26年度活動報告 11月

11月15日に建築学科主催の企業研究会、11月26日に如学会主催の企業研究会に参加させていただき、建設業界・鹿島建設グループについてのご紹介をさせて頂きました。当会からの出席者は、より学生さんに親近感を持っていただくべく、20代、30代会員が主体となり、出席をさせて頂きました。私自身が40歳目前、つい先日まで「若手」と呼ばれていた気がするのですが、すでに過去の事なのだと感じた次第です。本文記述時点では、日程未定ではありますが、平成28年卒業予定の学生さんを対象に、建設業界・鹿島建設グループについてのご紹介、現場見学会等を開催し、建設業界、鹿島建設グループへの興味を持っていただくよう、活動を行う予定でございます。

■平成27年度活動予定

平成27年度も26年度同様、4月に支部総会兼新入会員 (新入社員)歓迎会を開催、また、年度を通じて在校生に 対し就職活動の援助を行うことを予定しております。

■文末に

会の活動、総会の開催にあたり、校友会、大学、会員他、多くの皆様のご指導、ご協力をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。



◆「東熱柏会」支部だより

支部長 望月 宏(S41生産機械) 天川 信一(S60建築)

東洋熱工業株式会社柏会(東熱柏会)は、平成6年3月24日職場支部設置の承認をいただき平成6年4月1日より「会員相互の親睦を図り武蔵工大OBの認識・連帯意識を高める」として、京橋の本社の近くにある鳥料理店に機械工学科電子計測研究室(当時)の高田教授・武蔵工業会白川理事長の出席をいただき、会員総数18名で発足致しました。

弊社は、空気調和設備・衛生設備の設計・施工を主業務とし、「技術の東熱」として多少なりと評価をいただいて

職場支部だより

おります。クリーンエンジニアリング、バイオテクノロジー、省エネルギーシステム、置換換気・空調システム、ウエットエアー空調機、リニューアル設備診等の技術的実績を基に、スタジオ・放送施設、各種文化施設、地下鉄施設、超高層ビル施設、病院施設、産業空調施設等ありとあらゆる建築設備の分野に於いて成果をあげております。また、平成23年9月には、これらの省エネルギー技術を採用した本社ビルを建設し、「平成23年度住宅・建築物省CO2先導事業」に採択され、CASBEEでSランクを取得しました。さらに、平成24年には東京スカイツリーを含む東京スカイツリータウンの空調設備工事を施工しており、私たち工科系の出身者にとってはやりがいのある最適な職場環境であると自負しております。

東熱柏会の活動は、現在年1回ですが、新メンバー参入時等に総会を兼ねて開催しており、支部長よりの支部年度総会、賀詞交歓会での話、校友会会報等の情報により在学時の思い出話に花を咲かせると共に個々会員の近況、社内外での活躍、人生観に自己啓発を与えられるような親睦の会を目指し実施しています。平成26年度は、7月に本社のある京橋界隈で総会を開催しました。望月会長を中心に、会員の近況報告や2020年開催の東京オリンピック施設建設工事や東日本大震災復興工事等いろいろな話題で会話が進み、予定時間を超えてしまいました。

平成26年4月時点での会員総数は11名です。前回の執筆時(平成14年)に24名いた会員が11名と約半数になり寂しくなりましたが、27年度は新しい会員が入社する予定と聞いており楽しみにしています。また、会員個々が東熱柏会と同様に他の東京都市大学の会へ参加し、親睦の輪が益々大きくなる事も願っております。

会員紹介:望月宏(会長S41生産)、肥塚正博(S46機械)、薄葉博文(S48機械)、藤貫桂三(S50機械)、天川信一(S60建築)、小川英樹(H9機械)、荻田俊輔(H11院建築)、塚本和之(H15機械)、川崎洋(H16建築)、吉野一(H16院建築)、上田優馬(H25建築) 計11名

私事追記

卒業して今年で30年になります。今では同窓と会う機会はほとんどなくなってしまいましたが、仕事を通じ卒業生とわかると業務がスムーズに運ぶといったことが度々あり、そのたびに校友に感謝しております。

また、私の勤務する東北は震災以降建設工事量が増加 し、バブル以来の人手不足(現場管理員、作業員共)に なっていて工事工程管理に日々頭を痛めています。

一方、仙台周辺の沿岸地域は、少しずつではありますが 復興が進んでおり、魚市場(仮設ではありますが)や牡蠣 小屋も再開しています。東北にお越しの際は、松島や閖上 などお立ち寄りいただき復興支援の後押しをしていただけ ますと幸いです。

◆富士電機柏会支部だより

佐藤 圭輔(H16院エネルギー量子) 柏会活動から発展した繋がり

富士電機柏会では総会を年1回開催し、その他にも年数回の懇親の場を設け、社内の横の繋がりを作っています。 私は富士電機柏会幹事として参加していますが、これら活動のお陰で実際の仕事での協力体制がスムーズにできるなど、活動の効果を実感しています。

一方、富士電機柏会支部の社外との繋がりも本活動を通して強化できるよう取り組んでいます。その一環として、年1回の総会の内、隔年で他の支部との合同開催を企画、実施しています。またこの合同開催は本学のメモリアルホールをお借りし、大学関係者の方々もご来賓としてお越し頂くことで大学との関係強化にも繋がっています。

平成25年度の総会では、当日の大雪で交通網がストップしてしまい、本学での開催が中止になりました。次回の本学開催では開催時期を変更するなどして、より多くの方々が出席できる機会を作っていきたいと考えています。

これら柏会の活動を通して社内外の連携がつくられてきていることを実感しています。私個人としても、本学を卒業してから知り合った方々と懇意にさせて頂き、仕事でお会いする機会にも恵まれるようになりました。また、弊社のリクルート活動においても大学との繋がりを強くすることで円滑な活動ができていると思います。

先日この繋がりが発端で、柏会の活動とは別になりますが、授業の一環として機械工学科の学生(25名)の工場見学会が催されました。説明員は見学先の弊社川崎工場勤務の会員を中心に全員本学OBとしました。本学OBの説明員ですので気兼ねなく質疑応答も行われ、賑やかな雰囲気で執り行われました。またその後引率の先生方と本学OBの説明員とで懇親会が催され、柏会や大学、プライベートな話まで、大変盛り上がりました。

柏会の活動は社内外の繋がりを創り出し、仕事の連携へと発展できます。今後もこの繋がりを拡げ、そして深めていけるよう、関係各位のご協力を賜りながら活動していきたいと思っております。



■機械工学科

主任教授 大塚 年久(S53機械)

まえがき

卒業生の皆様方には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶 び申し上げます。以下に、機械工学科の近況をご紹介させて いただきます。

卒業と就職状況

平成26年3月に機械工学科を97名が卒業し、その内22名 が大学院博士前期課程(修士課程)に進学し、69名が就職、 その他が4名でした。皆様方の日頃からの一方ならぬご支援 を持ちまして、就職希望の学部生は、就職率97.2%を、また大 学院生については100%を達成し、前年に引き続いて極めて 良好な就職状況を達成しました。

新入生

平成26年度の入学試験は、前年度同様学科毎に実施され ましたが、受験人口が減少する中で、社会的にも工学系(特に 機械系)の人材が強く求められていることから入学志願者数 は順調に推移し、高い人気を維持することができました。最 終的に110名が、また大学院機械工学専攻博士前期課程に は20名が入学しました。

おわりに

機械工学科の卒業・就職・入学状況をご紹介して参りまし たが、皆様ご承知のように現在大学では短期海外留学制度 やアクションプラン2030等の大学改革が進行中であります。 卒業生の皆様には、これまでと同様にご支援、ご協力を賜り ますようよろしくお願い申し上げます。

■機械システム工学科

主任教授 田中 康寛

平成26年3月に第14期生93名が卒業し、4月には学部新入 生104名、大学院新入生29名を迎え、設立18年目がスタート しました。25年度は、女子の新入生が13名と史上最多でした が、26年度も9名と比較的多く、このところ1割近くを女子学生 が占めるようになりました。4月には新入生の歓迎行事であ るフレッシャーズキャンプが鬼怒川温泉で開催され、教職員 との親睦が図られました。

25年度は当学科からの退職者はありませんでしたが、平 成24年末に急逝された目黒在教授の後任教授として、宮坂 明宏氏が平成25年9月に着任され、宇宙システム研究室に所 属することになりました。

平成26年11月1日(土)には、恒例となりました、第7回 MESSAGE (Mechanical Systems Symposium by all Ages)が、学 園祭に時期に合わせて開催されました。(平成26年度より、学園 祭は11月初旬に開催されるようになりました。)これは卒業生、 教職員、大学院生、学部生の全員(All Ages)で機械システムエ 学科の将来を語るというイベントであり、卒業生の企業におけ る活動状況や各研究室の研究の紹介で、現役学生による就職 活動報告も行われました。現役学生にとっては、様々な視点か ら見た学習の意義を改めて認識するとともに、就職ヘモチベー



MESSAGEの様子

ションを高める大きなきっかけになっ たと思われます。皆様のご協力を感謝 します。なお詳細は大学ホームページ の"トピックス詳細"をご覧ください。

■機親会

会長 九田 一久(S46機械)

平成26年度の機親会の活動報告ですが、27年度以降も従来通りの活動に加え、校友会からの資金援助を加えて活動を 活発化する予定です。

機親会の活動経費は主に機械系学生の卒業時の会費と卒業生からの寄付によっています。近年は学内の役員の努力によ り高い納入率を維持しております。今後もこの仕組みを継続し、更に寄付金募集の機会を増やす計画です。

また、26年度より校友会から活動資金補助が得られる様になったので平成27年度以降は活動規模の拡大も可能となる と思われます。

1. 理事・評議員会を7月26日に開催し年度事業計画、予算等を審議・承認した。 2. 機械系2学科のフレッシャー ズ・キャンプへの支援と機親会活動の紹介を行った。 3.機親会奨励賞と奨励金を機械系学生会で顕著な活動を行った 機親会学生会、F-SAEチームの2団体に贈呈した。 4.3月の学位授与式において、機械系学科から推薦された学生と修 士に対して機親会賞を贈呈した。(機械科、学部:吉原顕人、修士:河内茂樹:機械システム、学部:宮田将吾、修士: 5. 5月28,29日に開催された機械工学科の工学基礎セミナーにOB講師として姫野正樹氏(H3機械、京王電 小山健太郎) 6.11月1日に開催の機械システム卒業生と学生の交流会(Message)を補助した。 化工業代表取締役)を推薦した。 7. 11月4日に富士電機(株)の川崎工場の見学会を開催した。(参加者28名) 8. 機械系研究室に各1万円を補助した。

平成27年度	東京都市大学・	校友会の主なる	行事
			I J 🛨

期日	行 事
4月2日(木)	入学式
6月6日(土) ~7日(日)	横浜祭
6月20日(土)	校友会総会·懇親会
7月18日(土)	オープンキャンパス(横浜・等々力キャンパス)
7月19日(日)、8月29日(土)	〃 (全キャンパス)
8月5日(水)	科学体験教室
9月中旬~10月上旬	大学と保護者との連絡会
10月31日(土) ~11月1日(日)	世田谷祭/等々力祭
3月19日(木)	学位授与式

*ホームカミングデーについては、決定次第、校友会ホームページに掲載致します。

■原子力安全工学科

主任教授 持木 幸一

平成26年2月4日に本多照幸先生がご逝去されました。昭和55年から本学に奉職され、教育・研究に尽力されてこられました。温和な人柄や話し方は3.11以降の混乱状況下に放射線等の解説にふさわしく、たびたびマスコミに登場され、一般の方々へ情報を発信されました。また、福島沖での放射能調査などにも参画されていました。ご冥福をお祈り申し上げます。

平成26年3月に4期生が卒業しました。大学院への進 学率は常に50%を超え、最近は、東大、京大、東北大、 東工大、筑波大などへ進学する学生も出ています。当学 科では、教員の交代期に入りました。平成26年度末に鈴 木、飯島、持木、平成27年度末に松本、藤本、平成28年 度末に横堀と次々に教員が退職します。その後任の人選 は、今後の原子力安全工学科の発展を期して、また、年 令構成にも配慮して慎重に行っています。研究室は5つ に分けられ、炉物理や原子力プラント分野の「原子炉工 学」、熱流体や原子力リスク評価の分野の「原子力安全 工学」、原子力耐震や原子力材料分野の「原子力機器工 学」、再処理や核燃料・材料分野の「サイクル工学」そ して、放射線計測や加速器分野の「放射線工学」の名称 が予定されています。教育・研究機器として、原研に中 型振動試験装置とペレトロン陽子線加速器が設置されま した。以上、学科の近況をご報告いたしましたが、詳し くは、学科のホームページをご覧ください。

■原子力友の会

未来への発展のために:現役学生との交流促進 羽倉 尚人(H17エネルギー基礎)

- ■世田谷祭に合わせて、卒業生と現役学生が交流できるイベントを開催した。卒業生11名、教員1名、学生6名の参加があり、昼食をとりながら、各自の自己紹介、近況報告を行った。電力会社勤務のHさんは、原子力発電所の建設現場や、福島の原子力発電所事故の復旧支援を紹介した。放射線計測機器メーカ勤務のYさんは、原発事故後の放射線測定器の高い需要に応えるための苦労話を紹介した。学生は、現在学んでいることや、希望する卒論テーマなどについて話した。原子力安全工学科の学生団体「閃源会(せんげんかい)」からは、夏に福島で空間線量を測定し、自治体の首長からお話を伺ったなどが紹介された。卒業生からは最近の学内の雰囲気や、進路の希望などの質問があった。今後も卒業生と現役学生が活発に意見交換し、学生が先輩を身近に感じられる会にしていきたい。
- ■毎年6月に定期総会を開催している。また、卒論発表会で優れた発表をした学生に対して、学位授与式に「友の会賞」を贈っている。



秋の懇親会の様子

詳細は、ホームページをご覧ください。 (http://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/tomo/index.html)

■生体医工学科から医用工学科に名称変更して

主任教授 森 晃

生体医工学科は2007年に開設され、より受験生に理解しやすいように、2013年に医用工学科と改称しました。生体医工学科は、臨床計測器械工学(森、和多田)、生体計測工学(島谷、京相)、知覚システム工学(桐生、平田)、生体認知工学(仁木、田口)の4つの研究室からなり、ヒトの健康に役立つ教育と研究を行ってきました。2013年度から田口教授の移動により生体認知工学研究室に機械工学科から桃沢愛先生を講師として迎えました。医用工学科へは医療機器について、医学と工学を勉強したい学生が入学してきます。最近では、臨床工学士の資格取得のために入学してくる学生も増えてきました。

2、3年生では、ラット、ヤギなどで実際の医療機器を使用する実物教育があります。また、昭和大学病院で高度な医療機器が使用される手術室や東急病院で健康診断的医療機器を見学する実習があり、脳腫瘍手術で使用される顕微鏡装置などを操作することも可能です。最も有意義なことは、現場の医療従事者から直接話を聞くことができ、医療機器装置の現状や配慮について学習できることです。現場での経験を教育改善と研究に生かせる最高の場となっています。医用工学科は将来の医療機器に関する研究者を育てるだけでなく、ヒトの健康状態を自宅でくつろぎながら計測するなど、全ての領域に関連していける研究者を生み出すのが使命であると考えています。これからも実物的教育研究により、多方面に応用できる人材育成に取り組みます。

校友会ホームページのご案内

校友会のホームページ (http://www.tcu-almni.jp) では、校友会からのお知らせと共に、地方支部、職場支部、学科同窓会、クラス会(年度同窓会)などからの最新の記事を掲載しています。

また、住所や会報送付停止などの登録情報の変 更ができます。

校友会ホームページから、順にクリックしてく ださい。

記事掲載をご希望の方は、校友会までお問い合わせの上、記事のPDFファイルをお送りください。



■電気電子工学科

主任教授 野平 博司

平成26年4月に多くの新入生を迎え、例年通りフレシャーズキャンプで新学期がスタートしました。新入生、補助の上級生およびクラス担任などの教員が1泊2日(鴨川ホテル三日月に宿泊)で参加する行事です。1日目は、教務ガイダンス、スポーツ大会、グループ討議など、2日目はマザー牧場で飯盒炊爨と散策などを行いました。新入生にとっては、見知らぬ他人から友達ができたり、教員や上級生との面識ができたりするので、初めての大学生活を円滑にスタートするのに大変効果的です。

平成24年度以降の教職員の入れ替わりは、ご退職が、平成25年3月末にて白木靖寛教授、平成26年3月末にて麻殖生健二教育講師、平成27年3月末にて湯本雅恵教授(S47電気)、小野茂教授(S48電気)、矢野史子教育講師です。一方、新たに平成24年度に鈴木憲吏講師(H17電気)、平成26年度に佐々木三郎教授、塚田敏郎教育講師が着任されました。平成27年度からは、これからの発展が期待されているスマートグリッドなどの電力分野が専門の方が着任される予定で、この分野を学ぶ学生にとって朗報でしょう。また、現在の社会要請を鑑み、大幅な改定を行ったカリキュラムが平成27年度からスタートします。最後に、平成26年度の就職状況は、企業から即戦力として期待されている大学院修了者について全員内定しましたが、残念ながら学部卒は全員ではありませんでした。(1月末時点)。来年度以降は学部卒も含めて100%を目指して教職員一同学生指導を工夫して行きます。

■電友会報告

会長 藤川 英司(S40電気)

はじめに悲しい報告をします。元電友会会長の梅原秀一郎氏が昨年の3月20日ご自宅において急逝されました。梅原元会長は、昭和24年に電気工学科を卒業され、昭和63年から平成3年まで武蔵工業会の第12代理事長を、さらに平成11年から平成18年まで電友会会長を務め、同窓会の活動に邁進され、会の発展に多大の貢献をされました。退任後も顧問として大局的な立場から我々後進の指導をして下さいました。

また、武蔵工業会館の運営にも積極的に参加され、亡くなられた当日も工業会館創立50周年事業の会合にも元気に参加されており、帰宅後お亡くなりになりました。

梅原元会長のご逝去は電友会にとりまして、大きな後ろ盾を失いましたが、氏の志を受け継ぎ会の発展に努力をすることが良い供養になります。ご冥福をお祈りいたします。

電友会では、平成27年4月18日(土)定期総会を開催いたします。3年に一度の定期総会では、活動の基本方針を審議し、役員の改選を行います。今年度電友会会員の5名の先生方が定年により東京都市大学を退職されます。昭和47年卒業の湯本先生(電気電子工学科、4月以降も副学長として残られます)、昭和48年卒業の小野先生(電気電子工学科)・飯島先生(原子力安全工学科)・鈴木先生(原子力安全工学科)・吉田先生(機器分析室)の5氏です。懇親会では、長年にわたるご研究教育活動に感謝し、慰労する会を開催致します。会員皆様の参加をお願いいたします。詳細は「校友会ホームページ>学科OB会」をご覧ください。

■エネルギー化学科

主任教授 金澤 昭彦

エネルギー基礎工学科、環境エネルギー工学科、エネルギー化学科の卒業生の皆様方におかれましては益々で健勝のこととお慶び申し上げます。当学科は平成20年の改組を経て今年度で7年目に入りました。

学科内の最近の動きとしましては、永きに亘って教鞭をとられた3名の教員がご退職されました。平成25年3月 山根公高准教授(水素エンジン・水素エネルギー分野)、同年7月永井正幸教授(無機化学・電気化学分野)、平成26年3月 鏑木裕教授(カーボン材料分野)。当学科発展へのご尽力に対し、本誌面をお借りし心より感謝申し上げます。一方で、後任として高津淑人准教授(燃料工学分野)、塩月雅士准教授(有機構造化学分野)、小林亮太講師(無機材料化学分野)といった若手教員が新たに着任され、当学科の一層の活性化に期待しているところです。また、平成26年度から入学定員が65名から70名へと増え、入学難易ランキングにおいても偏差値が51→55→56とここ数年上昇傾向にあります。当学科は本学唯一の化学系の学科として、教育研究内容におきましては化学色を濃くしたカリキュラム編制に取り組んでいます。それを反映してか、最近では化学を得意とする入学者が増えてきています。

今後も教職員をはじめ在学生一丸となって魅力ある学科 づくりに取り組んでいく所存です。卒業生の皆様のご支援、ご 助言を賜りたくお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝 とご発展をお祈り申し上げます。

会 費

校友会は終身会費制です。武蔵工業大学、東横 学園女子短期大学を卒業された正会員の方は今ま でに納入された会費を終身会費として扱い、今 後、会費を納入して頂く必要はありません。

在学中の準会員で、平成25年度までに入学された方は4年時に終身会費を納入していただき、26年度以降に入学された方は在学中の毎年度に分割して納入していただいています。

お問い合わせ

校友会へのお問い合せは、下記の本部・事務室へお願い致します。

〒158-8557

東京都世田谷区玉堤1-28-1 東京都市大学内

1号館4階 北側エレベーター前

電話:03-3703-3862 ファックス:03-3703-4595 E-mail:koyukai@tcu.ac.jp

ホームページ (http://www.tcu-almni.jp) から もお問い合わせを受け付けていますので、ご利用 ください。

■建築学科

主任教授 近藤 靖史

平成26年度の建築学科として、先ず意匠・計画系の先生方 の交替が挙げられます。住吉洋二先生と新居千秋先生が退 任され、堀場弘先生と福島加津也先生が建築学科教授陣に 加わりました。また、環境・設備系の教育講師として及川喜代 文先生も着任されました。以降、学年ごとに近況を少しずつ お知らせします。先ず1年生は4月初めに担任の先生や先輩 らとフレッシャーズ・キャンプとして、山梨県の昇仙峡などに 行きました。他学科はフレッシャーズ・キャンプの往きのバス が沈黙の時間となると悩まれているようですが、建築学科で はかなり盛り上がります。2年生は学生数が約160人とやや多 めですが、私の印象では真面目な学生が多いので授業中の 混乱(?)は見られません。3年生は後期に入る前に各研究室に 仮配属されます。これは数年前から行っていることですが、実 質的な就職活動が早めに開始されることに対応し、また卒業 研究をより良いものとすることを意図しています。4年生の就 職内定状況は概ね良好です。例えば、私の研究室の4年生は 今年の4月中に全員内々定を獲得しました。その要因の一部 はアベノミクスの影響かも知れませんが、如学会やOB・OG の支援によるものが大きいと思っております。4年生が大学 院に進学する割合は概ね3割程度で、エンジニア系に比べ 意匠・計画系の方が進学率はやや高いです。院生の研究活 動は非常に活発で、平成25年度の建築学会大会などでの研 究発表は70件を超えます。建築学科の最新の情報はhttp:// www.arc.tcu.ac.jp/をご覧いただけると幸いです。

■如学会

会長 山岡 嘉彌(S46建築)

如学会は平成26年度も数々の行事を開催してきましたが、本年度は如学会の枠にとどまらず、大学、建築学科、校友会、柏三水会、柏門技術士会との協力と親睦を兼ねた交流が一層進んだ年度となりました。関係各位に感謝申し上げるとともに、以下の通り、活動報告とさせていただきます。

- ■如学会「定期総会・講演会・懇親会」平成26年6月7日 総会、講演会、懇親会に建築学科卒業生ら126名が参加。 ご講演: 北澤宏一学長(於:渋谷エクセルホテル東急)
- ■「建築100人展2014・大学展/銀座展」開催。ウクライナ建築視察団 (元副首相、教授、学生、TV局ほか) 40名来訪。次年度は10周年記念展として大学展と美術館展を計画中。
- ■「台湾・都市建築視察ツアー」平成26年9日13日-16日 如学会主催、校友会、柏三水会、柏門技術士会共催で、19名が参 加しました。主賓に馮寄台 元・駐日代表 (大使) を迎え、校友会 台湾支部7名と懇親を深めることができました。
- ■「進路ガイダンス/進路支援プログラム2014」平成26年11月26日 第2回の本年度は72社150名のOB・OGが就職・進学・留学を志す学生(約150名)の相談に応えました。
- ■「夏期特別講義」平成27年8月開催予定。在校生のためのOB、 OG15人による15の講義。10周年目。
- ■「資格支援プログラム2014」継続中。次年度で3年目。
- ■「被災地支援プログラム2014」キッズデザイン賞受賞。
- ■「如学会NEWS・2014秋号/2015春号」の発行。(年2回)
- ■「作品見学会」、「技術研修会」、「講演会」などの各種イベント も継続開催。

詳細は校友会および如学会のホームページをご覧ください。 (https://sites.google.com/site/jogakkai/)

■都市工学科

主任教授 皆川 勝(S54土木)

近況と社会人大学院構想

平成25年から現在に至る学科の人員の変化についてご報告します。水圏環境の村上先生と構造安全の増田先生が定年で退職され名誉教授となられました。また、平成26年度、久しぶりに新任教員が赴任されました。水圏環境の田中陽二先生です。34歳の気鋭です。27年度も引き続き複数の若手教員が赴任することに決定しており、活動がより活発になると思います。

学科では、土木業界の活況や就職実績向上が功を奏して、受験生や推薦入学を希望する学生数が増えています。今後も、校友会の皆様のご支援により、公務員・ゼネコン・コンサルへバランスよく進むよう指導をしてゆきたいと思います。

一方、学科の重点施策として大学院に「社会人対象社会基盤マネジメント修士博士プログラム」を立ち上げるべく、大学側と交渉中です。経験豊富で実務で活躍されている卒業生の皆さんに、本学の渋谷や二子玉川(計画中)のサテライト教室で学び直しをしていただき、実務に近い研究を通じて「修士」や「博士」の学位を取得していただく構想です。この構想では、アジアを中心とする海外の留学生が入学できるよう英語のみで修了できるシステムを想定しており、本学のグローバル化にも大きく貢献すると考えています。

学科ウェブサイト: http://www.civil.tcu.ac.jp/

■緑土会

総務 丸山 收(S58土木)

平成26年度の総会・懇親会が、平成26年11月4日(金)に 私学会館・アルカディア市ヶ谷において開催されました。 総会では以下の議案が承認されました。懇親会では、松下 正勝校友会会長(S40土木)からのご挨拶、最年長参加者であ る保坂誠治氏(S23)による乾杯の後、旧交を温めました。 議事

- (1)平成25年度経過報告
- (2)平成25年度会計報告、監査報告
- (3)次期緑土会役員(平成27年4月より3年)

会長:草柳俊二(S42)副会長:小林哲男(S42)皆川 勝(S54) 監事:菊地孝明(S53)高田真人(S54)総務部長:丸山收(S58) 会計:皆川 勝(S54)総務:三浦 聡(S59)伊藤和也(H10) (4)学年幹事補充の件 平成26年度 新幹事

上村健太郎(修士課程在籍 地盤環境工学・末政研究室) 酒井駿治 (修士課程在籍 水圏環境工学・長岡研究室) 新倉大輔 (修士課程在籍 災害軽減工学・吉川研究室) 報告事項

(1)平成27年度の総会・懇親会

平成27年11月13日(金)私学会館アルカディア市ヶ谷

(2) 海外建設プロジェクト研修(平成26年9月17~23日)

ジャカルタMRT現場における他大学との共同研修に参加の大学院生3名、学部生6名に旅費の一部を補助。

(3)「社会基盤マネジメントプログラム」について (4)緑土会セミナー:緑土会会員のための緑土会セミナー を定期的に渋谷サテライトクラスで開催しています。詳 しくは、皆川勝教授(S54)にご連絡ください。

■情報科学科

主任教授 向井 信彦

平成24年度は情報科学科96名、コンピュータ・メディア工学科4名の合計100名の学生が、また、平成25年度は情報科学科91名、コンピュータ・メディア工学科1名の合計92名の学生が卒業し、これでコンピュータ・メディア工学科の在籍者数は0となりました。一方、平成25年度は124名の、また、平成26年度は110名の新入生が入学してきました。平成26年10月1日現在、1年生108名で、2年生131名、3年生109名、4年生94名となり、学部学生の総数は442名になります。

平成25年3月末日をもって、長年本学の発展にご尽力されました清水勇二技士がご定年を迎えられました。一方、平成24年4月より教育講師として着任して頂いておりました張英夏先生が、専任講師として採用されました。また、平成25年4月より、生体医工学科から田口亮教授が本学科に移籍されてきました。田口先生は既に多大な業績をお持ちですので、本学科でも一層のご活躍を期待するところです。

アベノミクスにより一時的な円安で自動車メーカを中心とする輸出産業は過去最大の利益を出したものの、その後の消費税率の増加とさらなる円安による輸入額の拡大で、日本の貿易収支は大幅な赤字が続いています。就職は以前に比べて多少は改善されたものの、平成26年度からは就職協定の変更などにより、全く予断を許さない状況にあります。

本学科は平成25年度より入学定員が10名増の95名となりました。学生数が増加しても教育の質を低下させることなく、合格者の偏差値や卒業生の就職内定率を維持し、さらに向上させていくためには、今まで以上のご支援をよろしくお願い致します。

■情報通信工学科

主任教授 佐和橋 衛

情報通信工学科に学科名称を変更してから、3年目を迎えます学科の近況をご紹介させていただきます。平成26年度より、学科の定員を55名から60名に増員しました。平成26年度は、72名の学生が本学科に入学しています。平成26年度の女子学生は、2年生では7名、1年生では8名となっており、女子学生の比率が高くなっているのが最近の本学科の傾向です。また、昨年の本学科の4年生(平成26年3月卒業)の就職内定率は98%であり、高い就職率を実現できています。今後も、学科教員はキャリア支援センターと連携して高い就職率を維持できるように頑張っていきたいと思います。

昨年度(平成25年度)より本学科の学生に対する賞として、通友会の大島弘之会長のご尽力により、「通友会賞」を設立しました。第1回の通友会賞は、森拓也君(通信システム・林研究室)が、学生の自主運営活動に対する多大な貢献により受賞しました。今後も、通友会と連携して、「通友会賞」を本学科の学生の学内外の貢献活動を表彰する賞として、学生にとって魅力のある賞にしていきたいと思います。

学生を指導する教員の体制は、ここ数年変わっておりません。専任教員8名、技術員2名の10名の体制で、1年生から4年生までの学生の指導を行っています。今後も引き続き本学科は、産業界、社会の要請に応える技術者を育成すべく教育・研究に着実な発展を目指していきますので、ご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

表紙解説

解説 勝又 英明(S55建築) 薩川 宜昭(H10経営)

校友会誌第2号、誌名が「都市」となりました最初の号です。今回の表紙・裏表紙は、校友会が設立して2度目の、平成26年度のホームカミングデーの集合写真をお届けします。表紙が世田谷キヤンパスで、裏表紙の上は等々カキャンパス、下は横浜キャンパスのものです。

まず、表紙写真は、平成26年11月2日世田谷祭の日、世田谷キャンパスで開催されたホームカミングデーの懇親会での集合写真です。体育館の2階席の遠くから望遠レンズで、大勢の皆様の小さなお顔をファインダーに収めなければならないという一発勝負の撮影でした。今回は268名の皆様に出席頂きましたが、写真を撮るタイミングが遅かつた為か、全員の皆様と写真を撮ることができませんでした。

裏表紙上段は世田谷祭と同時開催された等々力祭でのホームカミングデー懇親会の集合写真です。等々カキヤンパスのホームカミングデーですので、東横学園女子短期大学、都市生活学部、人間科学部の卒業生の皆さんが出席されています。写っている方に女性が多いのは、東横学園女子短期大学の卒業生の方が多いからです。

裏表紙下段は平成26年6月7日に開催された横浜祭の日に開催されたホームカミングデーの懇親会での集合写真です。写真撮影は本学新聞会の環境情報学部環境情報学科 藤本雅大さんです。ありがとつございました。お陰様で3キャンパスのホームカミングデー写真が揃いました。

■通友会近況報告

総務 秋谷 昌宏(S46通信)

平成26年度の通友会総会・講演会は、平成26年6月7日 (土)に、東京都市大学新築の1号館13D教室において 開催されました。総会では前年度、本年度の活動報告並 びに決算・予算案、役員・各期幹事選出の議題が審議さ れ、全て承認されました。その後、今年度より新たに通 友会に創設された社会貢献活動や本学科の知名度向上に 貢献した個人に贈られる"通友会賞"の授賞式が行われ、学 部4年生の森拓也君が最初の栄誉に輝きました。

引き続き例年の講演会に代わり今年は旧電子通信工学科の分身である"情報通信工学科"並びに"医用工学科"の見学会が行われました。両学科の実験室等の見学を通して最新の学科の状況を出席の学科OBに肌で感じていただきました。

見学会後の懇親会は、場所を1号館4階のラウンジ「オーク」に移し、大島弘之会長の開会の挨拶の後、ご来賓として松下正勝・校友会会長並びに九田一久・機親会会長の挨拶で始まりました。なお、本年度は山本尚生・知識工学部長及び佐和橋衛・情報通信工学科主任教授の挨拶等も途中盛り込みながら進行し、和やかなうちにお開きとなりました。

平成26年度発行の通友会の機関誌である"FLUX"41号は 特集として一昨年定年退職をされた秋谷昌宏教授の退職 記念号として昨年4月末に各会員へ配布されました。

本年の<u>通友会総会、講演会、懇親会は5月30日(土)午後</u>に、母校において開催する予定です。詳細は「校友会ホームページ>学科OB会」をご覧ください。

■経営システム工学科

主任教授 横山 真一郎 (S51経営) 「経営システム工学科」の近況

経営システム工学科を目指す受験生の成績は相変わらず学内で上位1,2を競っています。入学後には積極的に海外インターンシップに参加する学生や、起業に興味を持つ学生が多いようです。

学科では、学生の学習意欲や履修状況も参考にしてカリキュラムを改革しています。マネジメント力を持った工学技術者の教育を目指しています。人事関係では、平成26年度から、日立製作所に勤務されていた松﨑吉衛先生が経営管理学科目の特任教授として赴任されました。鈴木威一先生(S41通信)の後任になります。鈴木先生は特任教授として学科のみならず大学で、特に海外インターンシップの開拓にご尽力されました。さらに、セコム株式会社顧問の原口兼正先生(S49通信)を新たに客員教授にお迎えし、授業科目「サービス経営」を受け持って頂いています。一方、長年技術員そして事務員として当学科を担当され、学科運営を熟知されていた池田清美さんが、平成26年度から他学科に移られました。池田さんに代わり学科事務には宇野直子さんが就任されました。他にも客員教授や多くの非常勤講師の方々のご協力を頂いています。

最後に、経友会の皆様には日頃お世話になっており、 感謝申し上げます。経友会のご発展と卒業生の皆様方の ますますのご活躍をお祈りするとともに、変わらないご 支援とご協力をお願い申し上げます。

■経友会活動報告

会長 矢﨑 克実(S54経営)

平成26年度は経友会総会を11月2日世田谷祭のホームカミングデーに合わせて1号館4階オークにて開催いたしました。今後、経友会総会は、世田谷祭のホームカミングデーを開催日として計画してまいります。ホームカミングデーの該当年度生だけではなく、毎年大学の変化を見ていただき、夕方からは同期・倶楽部の仲間と旧交を温める日としてご参加いただける総会をめざしてまいります。毎年の予定に入れてください。

尚、以前より協賛している経営システム工学科の特別講義「グローバル社会における経営」は、鈴木教授(S41通信)から松﨑教授へ引き継がれ、引き続きお手伝いいたしました。27年度も、みなさまのご参加をお待ちしています。

また、26年度の活動に、新しく学生団体である「経工会」の活動の支援を検討しております。在校生を交えた同窓会活動を進めるべく皆様のご指導、ご協力の程をよるしくお願い申し上げます。

校友会 幹事の変更

嶋矢 剛氏 (H3) から 岸野 哲氏 (S42)

※総会資料を校友会 ホームページに掲載 してありますのでご 覧下さい。



■自然科学科

主任教授 吉田 真史

自然科学科は平成21年4月に開設された新しい学科で す。本学科は自然科学に関心をもつ学生たちの好奇心を 育みながら、科学と社会の架け橋となる人材を輩出するこ とを目指しており、学生たちは学校や博物館などの教育機 関のほか、企業や官公庁の調査分析部門などで活躍する ことを望んでいます。専任教員は、鈴木彰教授、吉野邦生 教授、飯島正徳教授、橋本義武教授、吉田真史教授、萩谷 宏准教授、中井洋史准教授、堀越篤史准教授、蛙原絹子講 師、門多顕司講師、高木晋作講師の11名です。 本学科の学 生のほとんどは学芸員課程を学んでいます。学芸員課程は 博物館、動物園、水族館などで教育研究に従事するための 資格取得が目標ですが、学芸員課程で学ぶ表現技法は教育 機関や一般企業でも役立ちます。学生たちは授業だけでな く、日本科学未来館や渋谷区こども科学センターをはじめ とする各地の施設でボランティア活動に参加し、科学と社 会の橋渡しをすることの大切さを学んでいます。 本学科の 卒業生は、ある業種に特化された人材ではなく、機器分析 や表現技法などの汎用的な能力をもった人材です。このた め、学生たちの就職先は多岐にわたりますが、どのような 業種でも東京都市大学の学生だと言うと、暖かく迎えても らえます。これはもちろん同窓生の皆様が築かれた社会的 信用のお蔭であり、心から感謝しています。自然科学科の 卒業生が、皆様の一員として、社会に貢献する日が来るこ とを楽しみにしています。

■さきがけ

会長 加藤 広樹 (H25自然科学)

私は知識工学部自然科学科の第一期生として卒業し、 現在は静岡県立大学大学院の学生として、日々実験を 行っています。私が所属している生薬学講座は植物や微 生物から医薬品になり得る化合物の探索やその化学構造 の解明を目指しています。生薬は天然に存在する薬効を 持つ植物、動物、微生物、鉱物のことで、中でも植物由 来のものが大半を占めています。現在でも大手製薬会社 では植物を原料とした生薬や漢方薬の研究や開発が盛ん に行われています。

ところで静岡県立大学薬学部では定期的に一般市民を対象とした薬草園見学会を実施し、生薬を身近に感じてもらえるような活動を行っています。そこで本同窓会「さきがけ」でも生涯学習活動の一貫として、静岡県立大学薬草園の見学会(平成26年6月1日)に参加しました(3名)。見学会では京都大学薬学部伊藤美千穂准教授による解説を受けながら園内の植物を観察しました。伊藤先生の解説は植物の名前だけでなく、生薬や漢方薬としての利用、名前

の由来、植物にまつわる故事を紹介して頂き、非常に興味を持つことができました。本同窓会は、今後も生涯学習活動に積極的に取り組んで参ります。



伊藤先生による薬用植物の解説

■環境創生学科

主任教授 史 中超

環境情報学部の改組により生まれた環境学部環境創生学科(専任教員定員9名、学生定員90名)が2年経ちます。環境創生学科は自然生態系を保護・保全し、あるいは修復・再生するための知識と技術、環境負荷を減らしながらも快適な都市環境を実現するための知識と技術を身に付け、それらを実社会に応用できる人材の育成を目指しています。これまで1期生117名(そのうち留学生1名)、2期生95名(留学生0名)が入学し、また、学部の名称が環境学部となったこともあり、すこしずつ環境問題に興味を持った専門性の高い学生が増えてきており、まずまずのスタートとなりましたが、留学生が非常に少ないのが大きな課題です。

今後、グローバル人材育成に力を入れるべく、27年度 より、以下の取り込みが進められています。

- ①今後3年をかけて学科として10名以上の留学生の入学を目指します。
- ②平成27年度から大学が進めている東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)に参加し、年間15名程度の学生を西オーストラリア州エディスコーワン大学へ送り込み、5ヵ月間の留学を通じて、国際的な視野とコミュニケーション能力を持った、時代に柔軟に対応できる人材を育成します。

平成27年3月に小堀洋美特任教授が退職され、平成27年4月1日に横田樹広准教授が着任される予定です。

■社会メディア学科

主任教授 清水 由美子

平成24年度以降の近況と平成27年度の予定

平成25年4月、「環境情報学部」が改組され、「環境学部」と「メディア情報学部」が生まれました。環境情報学部 情報メディア学科が学部に昇格した形のメディア情報学部は社会メディア学科と情報システム学科の文理複合型の学部です。メディア情報学部では、「コミュニケーション」をキーワードに、技術と社会の両面から新たな情報社会を創り出し、環境問題や国際問題などの社会的諸課題から、ビジネス、職場や身近なコミュニケーションまで、多様な課題に取り組み、新たなアイデアや情報システムをデザイン・発信していく力を育てます。

開設から2年経過した社会メディア学科では、平成27年度から始められる本学の国際人育成プログラム(TAP)への参加準備を急ピッチで進めています。開設初年度、2年目と順調に受験者を集めてきた本学科の学修の特色の一つが「プロジェクト型学習」です。提示された課題に対してどのようにアプローチをし、何を提案するのか、学生が自ら企画し進めていくのがプロジェクト型学習です。こうした学修に学年・研究分野を横断して参加する機会を設けることにより、主体的、実践的に学ぶ力を身に付けることが、社会メディア学科の学びの大きな特徴となっています。TAPへの参加も、こうした社会メディア学科が目指す学修の中に位置づけられます。準備教育に始まり5ヶ月間のオーストラリア留学を経て、どんな視野でのプロジェクト型学修が展開していくのか、今から楽しみです。

■環境マネジメント学科

主任教授 大塚 善樹

環境情報学科卒業生の皆様、お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、平成25年4月に環境情報学部は、環境学部とメディア情報学部に改組しました。環境マネジメント学科は、環境創生学科とともに、環境学部に新設された学科です。開設年度には、定員100名に対し145名の新入生を迎えましたが、2年目の平成26年度は内外の諸状況を勘案して定員を70名に削減し、74名の新入生を迎えています。

この改組は、旧環境情報学科の経営コースと政策コースを統合し、環境情報学科で行っていた教育・研究を継続・発展させたものです。上記2コースは、それぞれ環境経営分野、環境政策分野となり、環境に関する専門性を高めたカリキュラムを構成しています。1年生を対象に行っていた学外授業も、横浜市の施設から東京スーパーエコタウンにある最先端のリサイクル工場群に変更しました。

その他、平成24年度からの変更は、以下の通りです。平成18~22年度に環境情報学部長を務められ、学部の発展に多大の貢献をされた増井忠幸教授が、平成25年3月に定年退職されました。また、同年4月に、伊坪徳宏准教授が教授に昇任されました。平成26年3月には、野田昭宏講師が異動のため退職され、9月に環境コミュニケーションを専攻されている枝廣淳子教授が新たに着任されました。

環境マネジメント学科は、今後も環境情報学科における環境問題の解決に向けた教育・研究を継続・発展させてまいりますので、皆様のご支援・ご助力をよろしくお願いいたします。

■情報システム学科

主任教授 諏訪 敬祐

情報システム学科は環境情報学部情報メディア学科を改組して社会メディア学科とともに2013年4月1日に発足しました。新学科は利用者の多様なニーズ・視点の立場から情報システム構築やその調査、分析、評価ができるプロフェッショナルを育成することを目指しています。学科はプログラミング言語、メディア処理技術などの知識をもとに情報システムを作り上げるシステム構築能力を修得する「システムデザイン分野」と利用者のニーズを調査・分析して評価できる力を身に付ける「ICTアセスメント分野」で構成されています。本学科研究室教員は2014年12月現在、以下のとおりです。

音メディア処理研究室(岩野公司)、経営情報システム研究室(梅原英一)、人工知能研究室(大谷紀子)、マルチメディア処理研究室(奥平雅士)、次世代信号処理とソフトウェア研究室(小倉信彦)、情報通信研究室(諏訪敬祐)、情報セキュリティ研究室(関良明)、メディアネットワーキング研究室(藤井哲郎)、知能メディア研究室(八木伸行)、情報環境技術研究室(横井利彰/556電気)

情報システム学科第1期生は2013年4月2日に134名(うち女子35名)が入学しました。第2期生は2014年4月2日に105名(うち女子23名)が入学しました。

情報メディア学科については第8期生の2014年3月19日付の卒業者数は214名(うち女子58名)でした。教職免許取得者は16名です。また、就職内定率は94.3%でした。2014年3月末に家木俊温教授が定年退職され、関良明教授が同年4月に着任されました。

■都市生活学科

都市生活学部 学部長 坊垣 和明

平成21年に開設された都市生活学部は、平成25年3月に最初の卒業生160余名を送り出し、今春で3期生が卒業する。文系(社会科学系)の設定で、当初より就職戦線では厳しい戦いが想定されたが、幸い初年度(1期生)から高い就職率で卒業生を送り出すことができた。2期生、3期生も同様の状況で推移している。

都市生活学科は、極めて多様な領域をカバーし、商学・経営学に軸足を置きながら社会系方法論を基盤として、工学・芸術系のスキルや方法論が活用できる、企画・実行業務における実践力の高い人材育成を目標としている。開設後6年を経て、このような理念が少しずつ浸透し、それが高い就職率に反映されているのだと考えたい。

そのような人材育成に役立つ教育の一環として、プロジェクト演習等の実践的な授業に加え、各種プロジェクトへの参加・取組みを奨励し、平成26年度には以下に代表される活動を通して、実務的、実践的な能力を高めている。

- (1)「外濠再生構想プロジェクト」飯田橋から四谷に広がる 外濠を親水空間として再生するための調査・研究を実施。 「外濠再生構想シンポジウム」で高い評価を得た。
- (2)「Build Live Japan 2014 (IAI日本主催)」の設計競技に参加。「企画BIM賞」を受賞した。
- (3)「しんゆりマルシェ2014(同実行委員会主催)」に企画から運営まで参画、貢献しその成功を支えた。
- (4)「世田谷まちづくり大学生プレゼン大会(世田谷区主催)」に2チームが参加した。

■新美砂会の皆さまへ

副会長 川辺 加代子(S50国文)

全国の新美砂会の皆さま、お元気ですか?

東京都市大学校友会になって早2年、新美砂会を取り巻く環境も大きく変化しております。校友会総会・地方支部会・各種委員会活動等々、旧武蔵工業会の皆さんと討議を重ね、互いに協力しながら多角的な活動へと広がりをみせています。

そうした中で、本会が特に取り組む活動の一つに地方支部の整備・拡充があります。校友会には旧武蔵工業会から移行された42の地方支部があり、対して本会が有していたのは12支部のみのため、残りの30支部には地元での本会会員の取り纏め役が存在しません。したがって、中心となって活動していただけるメンバーを急ぎ選出しなければならず、本会役員が総力をあげて人材探しに励んでおります。平成25年度から始まったこの取り組みは、27年度いつぱいを目途に進めていきますので、全国の会員の皆さまにもご協力の程、よろしくお願い致します。

さて、平成26年度初めて等々力キャンパスにおいてホームカミングデーが開催され、懐かしい恩師の先生方や旧友とともに楽しい時間を過ごすことが出来ました。今年も11月の学園祭の折りに開催される予定ですので、母校から案内状が届きましたらお誘い合わせの上こぞってご参加ください。

なお、案内状は卒業後50年以降、10年単位の卒業生に 郵送されますが、会報や校友会ホームページにも紹介さ れますのでご利用下さい。

新美砂会会員の皆さまが校友会諸活動に積極的に参加されますよう、心より願っております。

■児童学科

人間科学部 学部長 近藤 雅雄

平成24年度以降も学科活動の進化は止まりませんが、主な内容について報告します。

- 1. 学科の認知度向上の推進、人材育成強化: 毎年学術講演会の開催、学生の学術研究発表の支援。
- 2. 都市大グループの連携強化: 幼大連携、高大連携の推進、東急グループ関連企業との連携。
- 3. 国際活動の戦略的展開〜国際連携・グローバル化強化:平成23年度ニュージーランドのカンタベリー大学との協定に続き、オーストラリアのウーロンゴン大学と平成26年8月に大学間協定を締結し海外研修の増加、共同研究の活性化、国際会議への発表や国際協力の推進。

4.絆づくりと活力あるコミュニティの形成〜地域貢献強化〜学科のブランド力強化:①子育て支援センター開設10周年記念事業として平成26年12月16日に学術講演会を開催。②平成24年3月に横浜市都筑区および認可保育所を設置する社会福祉法人、平成26年6月には一般財団法人川崎市保育会、同年12月には公益社団法人横浜市幼稚園協会との各々連携・協力に関する協定書を締結し、各機関との協定に基づくインターンシップ事業等、学生の教育・研究及び地域貢献の推進。③東日本の被災地や世田谷区内等の多様な福祉関連施設でのボランティア活動の推進。教員の異動:平成25年3月、遠藤幸子、山岸道子、青木純一、牧野由里、平成26年3月保坂達雄、村山拓の各先生が退職。また、平成25年4月山藤仁、伊藤陽一、村山拓、平成26年4月木内英実の各先生が新たに加わる。

ぴつぴ

子育て支援センターぴつぴは、東京都市大学 等々カキヤンパスで、人間科学部児童学科の学生 研修の場として、運営されています。

広々としたスペースを確保し、オリジナルの遊 具を揃えた子育て支援施設です。子育てが最も大変!といわれる乳幼児とその親が一緒に安心して 過ごす、遊ぶ場所として広く地域に開放され、たくさんの親子に利用いただいています。平日の開 館時間は午前10時から午後4時まで、土曜日は午後1時までです。利用料金は1家族1日200円です。昼食には学生食堂が利用できます。

http://www.tc.tcu.ac.jp/pippi/





■共通教育部

人文•社会科学系 主任教授 岩﨑 敬道

共通教育部が立ち上がって3年を経過し、 世田谷 (SC) 、 横浜 (YC)、等々力 (TC) の3キャンパス、6学部・18学科に亘 る共通教育としてのカリキュラムが整い、教養教育として全学 的教育に寄与できる体制ができました。

◎人文・社会科学系/人文・社会科学部門 教授 新保 良明 平成25年度から民法を専門とする大沼友紀恵准教授、心理学を専門とする渡辺昭彦講師をお迎えでき、専任は6名を数えた上に、部門構成は人文学と社会科学が同数となりました。大沼准教授は「民法」「法学」「日本国憲法」を担当し、YCでも「法と市民」を開講しています。

平成26年度から教養科目の全学的共通化が始まり、学生は3キャンパスのどこでも教養科目を自由に履修することができるようになりました。その結果、予想以上にキャンパス間の学生移動があり、学生からの評価も上々のようです。学生の満足度が上がれば幸いですし、異なるキャンパスの学生が都市大生として交流し合うことも期待されます。そして我々、人社部門の教員は全学的教養科目の中枢を担うのみならず、縁の下の力持ちになることも求められていると、その覚悟を新たにしています。

平成27年度の教養科目は77を数え、本学規模の大学ではありえないほど充実し、かつ幅広な科目配置になっています。

◎人文・社会科学系/体育教育部門 教授 渡辺 一郎 体育部門では長年ご活躍された浅野教授が平成25年に退職され、新たに山田盛朗助教が着任されました。これにより SCは渡辺教授、岩嶋准教授、椿原准教授、YCは久保准教授、山田助教の5名体制で担当しています。

全国的な学生の体力低下が言われて久しいのですが、本学学生も特に筋力系の低下が顕著です。この現状を改善すべく、実技種目では楽しく運動量を増やす工夫を凝らし、「スポーツ健康論」では体力低下が及ぼす影響や誰でもできる体力トレーニング法等を理論的にわかりやすく講義しています。SCでは「体育実技」が必修ですが、YC、TCは選択授業のため、すべての学生には実技を通しての体力強化、指導ができていません。多くの学生が体育実技を履修するよう日々努力しています。

その甲斐あって、YCでは毎年300名前後の学生が「体育実技」を履修し、またTCの学生に対しては将来的な必修化を目指して、SCにおいてTC1年生用の授業を用意して毎年100人前後の学生が履修しています。しかし、将来的には少なくとも「体育実技」だけは全学必修とすべく今後とも努力していく所存です。

◎人文・社会科学系/教職教育部門 教授 岩崎 敬道 専任スタッフとして井上 健教授、岩崎の他、渡邉大輔助教 (平成27年度から講師)を迎え、教職部門として研究・教育 に勤しんでいます。さらに平成26年度に鈴木邦夫教育講師の 着任もあり、学生への教育に厚みを加えています。

本学教職課程を修了した卒業生は、中学校数学・技術科、 高等学校数学・工業の教員はもとより(とりわけ中学校技術 科の教職課程を置く大学は極めて稀で、本学の社会的役割 が大きくなっています)、近年は中・高等学校の理科において も全国で活躍されています。ここ数年の教職への就職は、10 名を超えるほどにもなっています。着任した中学校に、本学 卒業生がいらっしゃったという声も聞かれます。

先頃、文部科学省による教職課程の実地視察が行われました。その指摘の厳しさが各大学で伝えられる中、本学に対しては、すこぶる高い評価も得ることができました。今後も更に充実した教育を行うことはもちろん、定期的に教職課程の卒業生が集える会を企画したいと考えています。尚一層のご協力をお願い申し上げます。

自然科学系 主任教授 山口 勝己

自然科学系3部門の専任教員は13名と少数ですが、65名の非常勤講師と共に、主に工学部・知識工学部の工学系基礎科目の教育と研究を担当しています。化学・生物・地学教育部門については、知識工学部自然科学科の教員が担当し、数学、物理部門についても自然科学科の教員と連携して教育を行っています。また、大学院の共通教育も担当しており、平成25年度より大学院共通教育委員会が発足し、体制の充実を図っています。

◎自然科学系/数学教育部門

平成25年度より経営システム工学科から金川教授が移籍され、教授2名、准教授2名、教育講師1名で、自然科学科の3名の教員と連携して教育研究を行っています。

◎自然科学系/物理教育部門

教授1名、准教授2名、講師1名、教育講師1名、技士補1名に加え、自然科学科の2名の教員と連携して教育研究を行っています。平成26年度は5年間にわたりリメディアル教育等を担当していた小澤幸光教育講師に代わり、右近修治教育講師が着任されました。

◎自然科学系/情報教育部門

教授1名、講師1名の体制で、主に工学部の情報基礎教育を行っています。また、情報基盤センターの整備・運営にも参画しています。

外国語共通教育センター 主任教授 日高 正司

3キャンパス統一による外国語共通教育センターが設立さ れて6年になります。他キャンパスで開講される外国語科目 を受講することも可能となり、キャンパス間の教員、学生の 交流が盛んになっています。今後は海外英語学習プログラム の充実や留学生受け入れ態勢の強化など、本学の国際交流 推進に合わせて外国語教育も更に充実したいと考えていま す。平成26年度はアラビア語圏文化講演会や英語集中キャン プなど、授業外で語学や異文化に触れるイベントも実施しま した。また全学生を対象に、英語力のアップ度を測るための G-TELPアチーブメントテストも実施しました。 学生一人一人が 到達目標を確認しながら継続学習をおこなう環境を整えて いきます。教授として長年外国語教育に尽力され、定年後も 非常勤講師として活躍された阿部達先生(英語)、山西龍郎 先生(ドイツ語)が平成26年度をもって退職されます。平成 27年度は新しい先生方とも協力しながら、本学の外国語教 育を一層充実させるべく全力で取り組みます。

平成26年度 就職動向と支援

キャリア支援センター統括課長 住田 曉弘

1. 就職環境の変化と対策

景気の上昇傾向などを受けて、平成27年3月卒業学生の 就職環境は改善しています。数字で見てみますと、新卒求 人倍率(リクルートワークス研究所調べ)では1.61倍(昨 年1.28倍)となり、昨年と比較しても一人当たりの求人数 は増加しています。本学の内定率の調査でも、昨年の同時 期に比べて高い結果を残しています。

ただ、全体的な数値は改善していますが、ここ数年の傾向として本学の学生に限らず複数の内定を得る学生と、思い通りに内定を獲得することができない学生との差が大きくなっていると感じています。

学生が内定を獲得するために、「(基礎力+専門力)× 就職活動力」を高めることが必要であると本学のキャリア 関連の担当者間では共有しています。これは低学年時から 面接や応募書類作成、筆記試験対策などの「就職活動力」 を高める対策を行うということではなく、低学年時には社 会の変化や社会で求められている能力を知るなど、キャリ アの意識を高める内容の授業やガイダンスを行い、「基礎 力」を高める授業や課外活動への主体的な取り組みの重要 性やインターンシップへの積極的な参加の効果などを伝え ています。また学年が上がってからは全員が研究室に配属 される本学の強みを生かし「専門力」を高めることを意識 するように伝えています。就職活動を迎える時期には、就 職指導の専門家が設計した「就職活動力」を高めるプログ ラムを多数開催し、そのプログラムに積極的に参加するこ とで良い結果につながっています。

次に最近の企業の採用についての変化を記します。

- ①グローバル化へ対応できる人材の育成が求められています。校友会様からもインターナショナルラウンジの開設支援や毎日学べる英会話講座への奨励支援など、学生が学ぶことにお力をいただいていますことを心より感謝いたします。
- ②採用選考前に学業成績書の提出を求め、採用面接時の質問項目として、「学生が大学で履修した科目について詳しく聞く」と表明している大手の企業が増加してきています。今後さらに大学での正課授業で身に付けたことをしっかり確認する傾向は高まると想定しております。
- ③平成28年3月卒業予定者から就職活動時期も大きく変化します。具体的に発表されている時期ですが、以前は求人情報の公開は大学3年生の12月であったのが、3年生の3月からに、採用面接は大学4年生の4月であったのが、8月からのそれぞれ遅い時期に変わります。

上記の変化などにより就職活動自体も大きく変化しますので、就職活動を行う学生は企業の動向についての情報をしっかり知っておくことが大切になります。本学としましては、できるだけ正確な情報を収集して学生に伝えられるように努めてまいります。

校友会の皆様からも学生への直接的、また情報提供などの間接的な支援も一層賜れますようお願いいたします。

2. 本学の取り組み

従来の就職支援業務の枠を超えて、キャリア全般に関わる幅広く充実したサービスを提供できる「キャリア支援センター」を各キャンパスに設置しています。

各キャンパスのキャリア支援センターには専門の相談員が常駐し、就職の相談のみならず、職業選択や進学など、将来の進路について的確なアドバイスを受けることが出来ます。常駐しているスタッフの多くがキャリアカウンセラーの有資格者であり、キャリアに関わることはどんなことでも安心してご相談頂けます。卒業生や先輩学生による密度の濃い情報をはじめ、就職活動支援サービス会社の各種資料なども豊富に提供しています。

また、各学科では就職担当教員がキャリア支援センターと連携して強力に学生をバックアップし、学科の強みや特徴を活かして、一人ひとりのニーズにあった支援を展開しています。就職支援行事は学内で実施するものだけで約100回にのぼり、徹底してキャリアについて考える機会をつくっております。更に本学の武蔵工業大学時代からの強みである「社会で活躍する卒業生」のご協力を得て、学部・学科ごとに企業・業界セミナーや相談会を実施するなど、充実した支援体制を整えています。

もちろん就職に関する個別相談も充実しており、カウンセラーによる面接指導や履歴書添削だけでなく、自己分析等の指導も積極的に行い、基礎から応用まで、幅広い指導をしています。

また、本学の学生を指定して寄せられる独自の求人だけを検索出来るシステムなどにより、内定獲得を目指す学生を強力に支援しています。

3. 平成26年度の状況

就職状況は、文部科学省発表の平成26年12月時点での全国の大学の内定率は「80.3%」でした。本学は12月時点で「86.0%」の決定率で、この数値は国公立大学の内定率をも上回っていますし、人間科学部の保育業界希望者は秋から冬にかけて選考のピークを迎えることを考えましても、十分健闘をしていると思います。

ただ本学としましては、まだ活動を継続している学生に対しての支援は最優先と認識しております。これからも学内に於いて企業との出会いの機会の提供や継続して求人をしている企業の情報の収集・提供などを通して、一層の就職活動の支援を実施してまいります。

4. 最後に

学生の進路に関する意識が多様化し、変化の大きな就職環境に対応すべく、今後ますますキャリア支援業務に注力してまいりますので、引き続き校友会の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



加藤 祐子 (S53国文)

昨年5月の創刊号に続き、第2号を発行する運びとなりました。今号の発行を企画した際、卒業生に 配布したいという思いから、3月発行と決めました。卒業生の皆さまのほとんどはこれから社会に足を 踏み入れることになりますが、その一歩として会報に目を通していただきたいと思います。すぐに同窓 会活動に積極的に参加することはかなわないと思いますが、是非先輩方の活躍を身近に感じてほしいと

願っております。

今号は、各学科・地方支部・職場支部の近況も掲載しました。ご自身の出身母体だけではなく、他の学科・支部もお 読みいただき、いろいろな同窓会活動を知っていただけければ嬉しい限りです。

私は卒業しました東横学園女子短期大学の同窓会「美砂会」の役員の任を受け13年、また「校友会」広報委員とし て、手探りで始めて早2年が経とうとしています。女性ばかりでのんびりと会報作りをしてまいりましたが、戸惑いなが らも会議を繰り返し、より良い会報をお届けするべく前向きに取り組んで活動しております。そんな姿勢を感じていただ き、応援していただけると幸いです。

武蔵工業大学、東横学園女子短期大学、そして東京都市大学の卒業生の皆さまが校友会に対してそれぞれ何を求め ていらっしゃるのか、今後の誌面作りの参考にしたいので、是非とも校友会事務室にご意見・ご感想をお聞かせくださ い。皆さまに求められる会報を作り上げていきたい!と考えております。

創刊号で会報の名称の募集を呼び掛け、少数でしたがご応募をいただきました。会報編集部会でロゴタイプも考慮し て慎重に審議し、『都市』と決定しました。そして、初代会長松下正勝氏(S40土木)の書による題字となりました。 「武蔵」、「美砂」に引き続いてご愛読くださいますよう願っております。

最後になりましたが、今号にご執筆いただいた皆さま、編集に携わっていただいた方々に心より御礼申し上げます。

会報編集部会

委員長: 今井 章久 (S44通信)

副委員長:勝又 英明 (S55建築)

編 集 長:加藤 祐子(S53国文)

員:早田 典子(S47家政)

委 員:衣斐喜美子(S55家政)

員:和多田雅哉 (S59電気)

委 員:三原 雄司 (HO1機械)

員:薩川 宣昭(H10経営) 委

2015年3月19日発行

東京都市大学 校友会 都市 vol.02

発行人 松下 正勝

発行所 東京都市大学 校友会

〒158-8557

東京都世田谷区玉堤1-28-1

東京都市大学1号館4階

Tel.03-3703-3862

Fax.03-3703-4595

CONTENTS 2015 March Toshi vol.02

- 1-2 巻頭言
 - 1 東京都市大学 校友会 副会長 小林 菊恵
 - 2 東京都市大学 学長 三木 千壽
- 3-5 ご報告
 - 3-4 平成26年度定期総会·懇親会
 - 5 第2回親睦ゴルフ大会
 - ホームカミングデー
 - 5 平成26年度「朝活応援」企画(100円朝食)実施報告
 - 5 親睦バスツアー
 - 追悼 北澤宏一学長を偲んで
- ご案内 平成27年度定期総会・懇親会
- 地方支部だより 7-16
- 職場支部だより 16-19
- 学科・学科同窓会だより 20 - 28
 - 大学からのお知らせ 平成26年度就職動向と支援 29
 - 編集後記 30
 - 20 平成27年度 東京都市大学・校友会の主な行事
 - 校友会ホームページのご案内 21
 - 会費 22
 - 表紙解説 24
 - ぴっぴ



